

授業科目名	生理学	担当教官	澤田 只夫
対象学生	1 学年	学期及び曜日・時限	前期・水・木曜 I 限
単 位	2 単位	必 修	教室名
学習のねらい	<p>人体の発生、構成について理解し、特にその機能を系統的に講義する。中でも植物性機能に重点をおき、その理解に必要な物理化学的基礎知識をも学習する。また、正常機能の理解に役立つ異常状態での機能(病態生理学)の基礎についても学習する</p>		
回	講義題目	内 容	
1	序論	生理学とは、生理学の歴史、血液(血液のはたらき、一般的性質)	
2	血液・間質液およびリンパ	血液の成分、凝固と線溶、赤血球沈降速度	
3		血液型(ABO 式、Rh 因子、Rh 型、白血球の型)	
4		間質液およびリンパ、体液の循環と移動(濾過と拡散および浸透圧、毛細血管における体液の移動)、リンパ節と脾臓のはたらき、胸腺	
5	体液と電解質	体液のあらまし、体液の組成と pH、体液平衡の障害(アシドーシスとアルカローシス(代謝性・呼吸性))、脱水(純粹の水欠乏、ナトリウム欠乏)、浮腫(水腫)、電解質失調の臨床、水と電解質の補充液	
6	循環	心臓の拍動(歩調とり、心筋の構造と収縮、心周期、心臓内腔の圧の変動、心音と心雑音、心臓に発生する電気、心尖拍動、心拍数、心拍出量)	
7		心臓の神経支配、血圧(平均血圧と脈圧、血圧の測定・異常、静脈圧、血圧に対する重力の影響) 血流の速度、脈拍	
8		呼吸の調節(呼吸中枢、呼吸の制御異常に関する疾患の理解、新生児と第1呼吸)、呼吸運動(吸息と呼息、呼吸型)、呼吸困難	
9	消化と吸収	敗の呼吸機能(肺気量、呼気・吸気・肺胞気と血液ガス、血液の酸塩基平衡と呼吸)、発声、運動(運動時の酸素摂取、運動によるエネルギー消費量の増加)	
10		口腔の作用(咀嚼、唾液の分泌、燕下)、食道の作用、胃の作用(胃の運動機能、胃の分泌機能(胃液))、嘔吐	
11		小腸の作用(膵液、胆汁、小腸の運動機能、小腸の分泌機能(腸液)、小腸の吸収機能、下痢、腸閉塞(イレウス)	
12			
テキスト、教材、参考書		系統看護学講座「解剖生理学」医学書院	
授業の形式、視聴覚教材の活用		講義中心におこなう	
成績評価の方法		中間と期末の筆記試験にて評価する	
メッセージ		特に、講義の予定範囲を予習し、また講義後には、復習によって十分理解するように心掛ける共に断片的な知識の詰め込みではなく、他の知識と関連させて理解することが大切である	

回	講義題目	内容
13		大腸の作用(大腸の運動機能、大腸の分泌・吸収機能、排便、腸内の発酵と腐敗、便秘)、肝臓の作用、胆嚢の作用
14	体温とその調節	体温(体熱の産生と放散)、体温の調節と異常(体温の調節、体温の異常)、発汗
15	腎臓および尿路	尿の生成と腎臓の働き(尿の生成と尿細管における水と電解質の移動、尿量、腎臓の働き、腎臓の疾患)、排尿と尿の成分(排尿のしくみ、尿の成分)
16	内分泌	内分泌のあらまし、下垂体(前葉、後葉、中葉)、甲状腺、上皮小体(副甲状腺)
17		膵臓(インスリンとグルカゴンの分泌)、血糖の内分泌調節、糖尿病
18		副腎(副腎髄質、副腎皮質)、性腺(精巣ホルモン、卵巣ホルモン)、松果体、その他の内分泌様器官
19	骨格筋	筋のあらまし(筋の微細構造と収縮の機構、筋の特性の大要、筋の収縮の種類、電気の発生)
20		筋のはたらきと変化(筋収縮時の化学変化、筋の緊張)
21		運動時の身体の変化と筋と疲労、筋の神経支配と動作、死硬直
22	神経系	神経細胞の生理(神経細胞の興奮、活動電位の伝導、神経の興奮とシナプス伝達、全か無かの法則、反射とシナプス、神経線維、神経の物質代謝)
23		抹消神経系(脳脊髄神経系(体性神経系)、自立神経系(植物神経系))
24		中枢神経系(脊髄、脳幹、間脳および大脳(基底)核、小脳、大脳皮質、中枢神経系の障害)
25	感覚器	皮膚感覚、深部感覚、内臓感覚、味覚、嗅覚
26		聴覚および平衡覚(外耳、中耳、内耳、聴覚、音の感覚)
27		視覚(視細胞、視覚の伝導路とその障害、光と色の感覚、順応、外眼筋による眼球運動の調節、眼球に関する反射)
28		総まとめ

授業科目名	解剖学	担当教官	浅見知市郎
対象学生	1学年	学期及び曜日・時限	前期・火曜 III限 木曜 IV限
単 位	2単位	必修	教室名
学習のねらい	人体解剖学の基本を学習し、看護職に必要な人体の構造に関する知識を深める		
回	講義題目	内 容	
1	総論	解剖学という科目がいかなるものであるか解説する。すなわち、肉眼解剖、組織学、発生学といった構成からそれぞれの研究対象について理解させる。また、講義の進め方について説明する	
2	組織学概要	人体を構成する素材である組織にはいかなる種類のものがあるか、それぞれの構造と機能について解説する。また、発生学的な相違について解説する	
3	骨格系 I	骨とはそもそもどのようなものか、構造と役割について総論的に解説する	
4	骨格系 II	頭部と体幹の骨について、形態、その他の諸器官との関係について解説する	
5	骨格系 III	上肢、下肢の骨の形態について解説する	
6	筋系 I	筋の総論と頭頸部、胸部の筋について解説する	
7	筋系 II	腹部、背部、上肢、下肢について説明する	
8	脈管系 I	脈管系の中心をなす心臓の構造について講義する	
9	脈管系 II	全身の動脈のおおまかな走行について解説し、その中で特に重要と考えられるものについては詳しく説明する	
10	脈管系 III	全身の静脈のおおまかな走行について解説し、その中で特に重要と考えられるものについては詳しく説明する	
11	脈管系 IV	リンパ系、脾臓、血液と血球について解説する	
12	消化器系 I	口腔から胃までの消化管について解説する	
13	消化器系 II	小腸と大腸の構造について講義する	
14	消化器系 III	肝臓、胆嚢、脾臓の構造と、それぞれの位置関係について詳しく解説する	
テキスト、教材、参考書		系統看護学講座「解剖生理学」医学書院	
授業の形式、視聴覚教材の活用			
成績評価の方法		筆記試験によって評価する	
メッセージ		解剖学は基本です。しっかり学習しましょう。	

回	講義題目	内容
15	呼吸器系 I	鼻腔、副鼻腔、咽頭の構造と、それぞれの位置関係について講義する
16	呼吸器系 II	喉頭、気管と気管支、肺について講義を行う
17	泌尿器系	腎臓、尿管、膀胱、尿道について講義を行う
18	生殖器系 I	男の生殖器(精巣と精巣上体、精管、精嚢と前立腺、陰茎、精液と精子)について講義を行う
19	生殖器系 II	女の生殖器(卵巣、卵管、子宮、胎盤、膣と外陰部)について講義する
20	内分泌系	下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、胸腺、副腎、膵臓のランゲルハンス島について、位置、形態、ホルモンについて解説する
21	神経系 I	中枢神経系(脊髄、延髄と橋、小脳、中脳、間脳、大脳半球、脳室系、髄膜と髄液、脳の血管)について
22	神経系 II	抹消神経系(脳神経、脊髄神経、自律神経)について
23	神経系 III	神経系の主な伝導路(反射路、知覚性伝導路、運動伝導路)について
24	感覚器系	視覚器(眼球、眼球の付属器)、平衡感覚器(外耳、中耳、内耳)、皮膚(表皮、真皮、皮下組織、毛とその付属器、つめ、脂腺、汗腺、乳腺と乳房)
		*それぞれの単元の終わりに小テストを行います

授業科目名	体の発生と発達	担当教官	澤田 只夫
対象学生	1 学年	学期及び曜日・時限	前期・水曜 III限
単 位	2 単位	必 修	教室名
学習のねらい	ヒトのライフサイクルを中心に、生命の誕生と発達を分子・細胞・個体のレベルで考察することにより理解する		
回	講義 題 目	内 容	
1	1)ヒトのライフサイクル	生物の基本単位－細胞、体細胞分裂と減数分裂、性染色体	
2		性と生殖(生殖器官とその働き、卵の成熟、精子の形成)	
3		発生(精子の移動、精子および卵の受精能、卵と精子の合体、着床、妊娠の維持、分娩)	
4		成長と発達(哺乳、成長、発達、思春期、老化、そして死)	
5	2)ホルモンとからだ	ホルモンの概念(ホルモンと神経、ホルモンの前駆体と化学、ホルモンと受容体との作用)	
6		性の分化とホルモン(生殖腺の分化、性決定遺伝子、内部生殖器官/外部生殖器官の分化、脳の性分化)	
7			
8	3)ヒトを対象とした遺伝子	ヒトの遺伝学(メンデル性遺伝と突然変異、血液型、DNA と遺伝情報、染色体と先天性異常、正常形質の遺伝、双生児、近親婚)	
9	4)ヒトの神経系と脳	神経細胞、脊椎動物の中樞、ヒトの脳の構造、古皮質と新皮質、右脳と左脳、脳の本質を知るために、反射と行動	
10	5)人間性と行動	人間性を培うもの、創造力、人間性の喪失(精神病、ストレス)	
11	6)ヒトの起源	ヒトの祖先、ヒトの進化、人種間の遺伝的差異、人類の未来	
12	7)生命工学	生命工学の考え方と方法、医学、製薬、農業と生命工学、自然環境と生命工学	
13	8)病気と予防、健康と生活環境	日本人の疾病構造、健康増進、環境汚染と健康被害の歴史、環境汚染の現状	
14	9)総まとめ		
テキスト、教材、参考書	「人間の生物学」 菊山、北川、桑沢、平田、音川、吉村著 培風館 改訂版		
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義中心に進める		
成績評価の方法	中間及び期末の筆記試験で評価する		
メッセージ	講義の予定範囲を予習し、また講義の後に復習を十分理解するように心掛ける		

授 業 科 目 名	物理学と看護人間工学	担 当 教 官	新 藤 悦 子
対 象 学 生	1 学年	学 期 及 び 曜 日 ・ 時 限	前 期 ・ 金 曜 Ⅲ 限
単 位	2 単 位	選 択	教 室 名
学習のねらい	人間の特性を理解し、人間(患者、看護婦(士))とものやシステムとの関係をよりよい条件に整えるための知識を学び、患者の療養生活や看護の作業環境を調整する役割と機能を認識する。		
回	講 義 題 目	内 容	
1	看護人間工学とは	人間工学とは何か、人間工学は我々の日常生活にどのように貢献しているか、看護における人間工学の意義、看護人間工学の対象と目標などについて学ぶ	
2	もの作りと人体寸法	身長と身体各部の寸法、身長とものの高さの関係について学び、生活姿勢、作業姿勢、さらに人間の動作空間について学ぶ	
3	日常生活における動作特性と設備、家具	立位、椅子座位時の手足の動作空間、作業面、様々な姿勢と空間、床面、通路の動作空間と通路の広さなどについて学ぶ	
4	もの、設備を考察する	＜フィールドワーク＞身の回りにあるもの、設備を測定し、使いやすさを考察する	
5	感覚特性と安全性快適性	視覚特性と見えやすさ、空間認知の特性と地図、触感と操作のしやすさなど感覚と安全性、快適性の関係を学ぶ	
6	日常生活動作と使いやすさ	食べる、寝る、座る、清潔にする、排せつするという行為と使いやすさ、安楽性を考えた物、設備構造について学ぶ	
7	使いやすさとは	＜グループワーク＞使いやすさとは一体何か。これまでの学習をもとに使いやすさの要因にせまる試み	
8	障害者の動作特性とバリアフリーデザイン	バリアフリーとは、その視点から障害者にとって安全かつ使いやすい配慮点を学ぶ	
9	高齢者の動作特性とバリアフリーデザイン	バリアフリーの観点から高齢者の行動特性を知り、設備、空間にどのような配慮を必要としているか学ぶ	
10	車椅子使用とバリアフリー	＜フィールドワーク＞当短大において車椅子による移動を体験し、使いやすさ、安全性を考察する	
テキスト、教材、参考書	講義の中で提示する		
授業の形式、視聴覚教材の活用			
成績評価の方法	ペーパーテスト・レポート・学習参加状況		
メッセージ	自分にあった椅子、作業し易い空間、自立を助ける環境など、身近な問題をとりあげながら学んでいきます。		

回	講義題目	内容
11	病院(施設)病室(居室)と空間	対人距離とベッド間隔、病室における患者のパーソナルスペース、看護作業とベッドまわりの広さについて考える
12	ベッドと安楽性	患者の臥床時体位を力学的にとらえ患者にとって安楽な体位を理解する。また体圧と循環などの関係を学ぶ
13	働きやすさと使いやすさ(1)	看護作業の特徴から看護姿勢をとりあげ安全に安楽に援助する基本を学ぶ
14	働きやすさと使いやすさ(2)	病棟の構造、設備と看護婦(士)の行動から働きやすさ、使いやすさを考える
15	まとめ	

授業科目名	栄養学	担当教官	澤田孝子
対象学生	2学年	学期及び曜日・時限	前期・木曜 III限
単 位	1単位	必 修	教室名
学習のねらい	日常の食生活において正しい摂取の仕方を理解する能力を養うと同時に、各々の栄養源の生体への影響を考える		
回	講義題目	内 容	
1		栄養学のなりたちと目的:人は何故食べるのか	
2		各栄養素の栄養的意義:糖質の栄養、たんぱく質とアミノ酸の栄養	
3		各栄養素の栄養的意義:脂肪と脂肪酸の栄養、ビタミンとミネラル、水	
4		エネルギー代謝	
5		栄養所要量と食生活指針	
6		ライフステージと栄養	
7		中間試験	
8		食品構成と各種食品の特徴	
9		栄養状態の判定、わが国の栄養の現状と栄養改善	
10		各栄養素の消化と吸収	
11		各栄養素の消化と吸収	
12		臨床栄養:栄養療法の分類、食事療法の進め方	
13		臨床栄養:食事療法の実際ー消化器疾患、循環器疾患、代謝・内分泌疾患	
14		臨床栄養:食事療法の実際ー糖尿病、腎疾患、感染症、術前・栄養	
15		期末試験	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座「栄養学」医学書院、「栄養データブック」女子栄養大学出版部		
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義を中心に進める		
成績評価の方法	中間及び期末の筆記試験、レポートで評価する		
メッセージ			

授業科目名	生化学	担当教官	澤田 只夫
対象学生	1学年	学期及び曜日・時限	後期・水曜 IV限
単 位	1単位	必 修	教室名
学習のねらい	<p>数え切れないほどの多くの化学的現象が小さな細胞の一つひとつのなかで起きている。その秩序正しくはたらく統合の美しさ、すばらしさこそが、私たち人間を含め、あらゆる生命体の営む共通の生命現象であり、生命の仕組みの基本がここにある。この精巧な機構のわずかな乱れの積み重ねが病気にかかわることであるとすれば、看護の立場からもこの生命科学を十分に理解することが大切である。また近年、特に目覚ましい発展を遂げている分子医学の基礎についても学習する</p>		
回	講義題目	内 容	
1	I. 細胞と生体物質 序論(細胞)	生化学とは/生体のなりたちと生命/細胞の構造	
2	タンパク質とアミノ酸	<p>タンパク質(タンパク質とは/タンパク質のはたらきと分類) アミノ酸(アミノ基とカルボキシル基/立体異性体/必須アミノ酸/ペプチド結合) タンパク質の構造と性質(一次構造から高次構造へ/両性電解質としての性質/変性/分類)</p>	
3	酵素	<p>酵素の役割(生体の化学反応と酵素の役割/反応速度と反応平衡) 酵素の反応様式(酵素の活性中心と基質/ミカエリス-メンテンの式とミカエリス定数/酵素の作用機構/酵素活性に影響を与える因子と酵素の変性/酵素活性の調節)</p>	
4	糖質	<p>糖質の役割と種類 単糖(基本的な性状と構造上の特徴/グルコースとフルクトース-ヘキソース/その他の重要な単糖) オリゴ糖(少糖)と多糖</p>	
5	脂質	<p>脂質の性状と分類 脂肪の種類とその特徴(脂肪酸/トリアシルグリセロール-中性脂肪/リン脂質/糖脂質/ステロイド/胆汁酸/リポタンパク質)</p>	
6	水と無機質	<p>水(水の分布と体液の組成/水の動態) 無機質と微量元素(カルシウム/リン/イオウ/カリウム/ナトリウム/その他の元素)</p>	
7	II. 物質代謝とエネルギー代謝 代謝のあらまし	<p>代謝の意義(新陳代謝/異化と同化) 代謝の調節(中間代謝/生体物質の相互交換) 生体反応の調節機構</p>	
テキスト、教材、参考書		系統看護学講座「生化学」医学書院	
授業の形式、視聴覚教材の活用		講義中心に進める	
成績評価の方法		中間及び期末の筆記試験にて評価する	
メッセージ		講義の予定範囲を予習し、また講義後には、復習により十分理解するように心掛ける	

回	講義題目	内容
8	糖質代謝	糖質の消化と吸収(糖質の種類/消化/吸収/単糖類の肝臓における代謝) 解糖反応(意義とあらまし/解糖反応の調節/クエン酸回路/糖新生) グリコーゲンの合成と分解、ペントースリン酸回路、糖質の脂質への転換 血糖の調節と糖尿病(血糖値/血糖値を低下させるメカニズム/血糖値を上昇させるメカニズム/糖尿病)
9	脂質代謝	脂質の消化と吸収(必須脂肪酸の役割/リパーゼの作用/消化された脂質のゆくえ/ 胆汁酸の働き) 血液中の脂質(血液中における脂質/リポタンパク質の役割/高脂血症) 脂肪酸の代謝と合成(β 酸化の機能としくみ/ β 酸化の調節とケトン体/脂肪酸の生 合成) コレステロールの代謝、プロスタグランジン
10	タンパク質代謝	タンパク質の消化と吸収(タンパク質の消化/アミノ酸の吸収) アミノ酸の利用と代謝(アミノ酸の利用/代謝/代謝異常/可欠アミノ酸の体内合成/ 窒素平衡)
11	生体エネルギー	高エネルギー化合物とは 生体内の重要な高エネルギー APTの産生経路のまとめ
12	代謝調節	代謝の全体像(代謝マップ/異化/同化/代謝経路の収束代謝経路の枝分かれ/細 胞内区画) 細胞内の調節(調節の必要性/酵素活性の調節) 全身の代謝調節(臓器の代謝の調節/臓器の代謝の統合/食事直後と空腹時/糖尿 病/ストレス)
13	Ⅲ. 情報代謝(タンパク質 の合成と遺伝) ヌクレオチドと核酸・DNAの 複製	ポリヌクレオチド・ヌクレオチドおよびその成分(ポリヌクレオチド/ヌクレオチド・ヌクレ オシド/ヌクレオチドの役割) ヌクレオチドの代謝(プリンヌクレオチドの由来/ピリミジンヌクレオチドの由来/再利用 ーサルベージ経路/デオキシリボヌクレオチド/ヌクレオチドの異化ー分解) DNAの代謝(デオキシリボ核酸の構造ー二重らせん構造と塩基対/核酸の変性と再生/ 染色体/核酸の分解/DNAの合成ー複製) DNAの傷害と修復(傷害の原因/修復機構)
14	転写と翻訳	転写(転写伝令 RNA の合成/伝令 RNA の処理(プロセッシング)/その他の RNA の合 成/転写の調節 遺伝暗号の解読 翻訳(遺伝情報の翻訳/ポリペプチド合成の開始とリボソーム/ポリペプチド鎖の延長 /ポリペプチド合成の終結) 翻訳後の修飾と細胞内輸送(タンパク質の分布と合成部位/分泌タンパク質の合成 後の処理) 阻害ー抗生物質の作用(原核細胞と真核細胞の違い/抗生物質の作用)
15	遺伝子の異常と分子医学	遺伝性代謝疾患(分子病ー鎌状赤血球症/その他の遺伝性タンパク質異常症と酵 素の異常に基づく疾患/先天性代謝疾患の治療と予防) 遺伝子異常の形式(塩基配列におきる異常/染色体の異常/多遺伝子性の形質と疾 患) がんと遺伝子の異常(正常の増殖と異常な増殖/ヒトのがんの発生/遺伝性代謝疾 患とがんー遺伝子異常の違い) DNA診断(塩基配列を調べる/すでに異常がわかっている遺伝子の場合/制限酵素 断片長多型性(RFLP)を用いる診断)

授 業 科 目 名	スポーツと健康	担 当 教 官	近 藤 照 彦
対 象 学 生	1 学年	学期及び曜日・時限	前期・火曜 V限 後期・火曜 I限
単 位	2 単位	必 修	教室名
学習のねらい	適正なライフスタイル維持と看護業務に従事する際の健康維持をねらいとした、実技と理論を学習します。実技は楽しめる選択スポーツを経験し、身体活動量を向上させ、体力の維持・向上に役立てます。理論は、入門運動生理学のテキストを中心に講義します。特に、毎日心がけて体のコンディション、脈拍、血圧および体重などを健康手帳に記入して下さい。毎日記録することは、日常の健康に気配りする良い習慣が身に付くための動機づけとなります。		
回	講 義 題 目	内 容	
1	実技スポーツ授業計画	オリエンテーション	
2		コンディショニング・ウォーキング・ストレッチング	
3		コンディショニング・ウォーキング	
4		コンディショニング・12 分間走	
5		12 分間走予備日・体脂肪率測定	
6		選択スポーツとトレーニング	
7		選択スポーツとソフトボール大会の練習	
8		ソフトボール大会(全員出席)	
9		選択スポーツとトレーニング	
10		選択スポーツとトレーニング	
11		車椅子とスポーツ	
12		車椅子とスポーツ、障害者と一緒に	
13		車椅子とスポーツ、障害者と一緒に	
14		選択スポーツとトレーニング	
テキスト、教材、参考書	実技はトレーニングウェア(フリースタイル)、体育館シューズ、屋外シューズを準備 理論は「入門運動生理学」と健康手帳を一緒に持参してください。		
授業の形式、視聴覚教材の活用			
成績評価の方法	出席を重視します。月 1 度、健康手帳をチェックし記載良好者は検印します。 理論は、国試対策を視野に入れた生理学関連の試験を行います		
メッセージ	集合は、5 分前の時間厳守、動きのある積極的な行動と元気ある挨拶を期待します		

回	講義題目	内 容
1	理論 健康科学授業計画	オリエンテーション
2		12 分間走予備日「グランド」と高山村運動会の練習
3		講義:健康手帳の整理・運動とからだ・運動のエネルギー
4		選択スポーツとトレーニング
5		講義:健康手帳の整理・運動と筋肉・骨
6		選択スポーツとトレーニング
7		講義:健康手帳の整理・肥満と効果的なダイエット・肥満の評価
8		選択スポーツとトレーニング
9		講義:健康手帳の整理・運動と健康増進プログラム
10		選択スポーツとトレーニング
11		講義:健康手帳の整理・生活・健康調査表の作成
12		選択スポーツとトレーニング
13		講義:健康手帳の整理・高齢者の運動と体力
14		選択スポーツとトレーニング
15		講義:健康手帳の整理・運動生理学まとめと試験対策

授業科目名	こころと看護	担当教官	大沢博
対象学生	1学年	学期及び曜日・時限	後期・水曜 III限
単 位	2単位	必修・選択必修・選択	教室名
学習のねらい	看護におけるこころの問題を理解する		
回	講義題目	内 容	
		<ul style="list-style-type: none"> ・人間の3つの次元:精神・こころ・身体 ・還元主義の非人間性 ・こころと身体 ・脳のはたらきと心 ・メンタルヘルスということ ・メンタルヘルスと栄養 ・精神疾患と栄養 ・看護における心の理解 	
テキスト、教材、参考書	「精神疾患と栄養」 ファイファー著 大沢訳 ブレーン出版		
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義 スライド使用		
成績評価の方法	ペーパーテスト		
メッセージ			

授業科目名	文学	担当教官	藤本宗利
対象学生	1学年	学期及び曜日・時限	前期・土曜 集中講義
単位	2単位	選択	教室名
学習のねらい	『源氏物語』の読解を通して、古典文学の基礎的知識を修得し、日本文化の基層を理解する。		
回	講義題目	内容	
	『源氏物語』の世界 I	『源氏物語』は、わが国の古典文学中で最も高名な作品の一つである。同時に、それ以後の文学作品や、美術工芸・遊戯・演劇など多方面にわたって、強い影響を及ぼしていることでも知られている。本講義では、その『源氏物語』からいくつかの場面を抄出し、その読解を通して、わが国の伝統文化に底流する「源氏物語的なもの」を理解しようとするものである。	
テキスト、教材、参考書	プリント配布		
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義		
成績評価の方法	レポート及び、平常点による総合評価		
メッセージ	平安朝文学の優雅さに触れる。日本の伝統文化の理解。		

授 業 科 目 名	教 育 学	担 当 教 官	本 吉 修 二
対 象 学 生	1 学年	学 期 及 び 曜 日 ・ 時 限	前 期 ・ 水 曜 Ⅱ 限
単 位	2 単 位	選 択	教 室 名
学 習 の ね ら い			
回	講 義 題 目	内 容	
		<p>教育とは、人間が人間になる過程を助成するものである。</p> <p>この意味では、教育は生活のあらゆる場と時に存在している。そのような教育の本質や機能や方法などを研究し、よりよい教育を実現するための知見を提供するのが教育学の役割である。</p> <p>「現代教育の諸問題」と題して「高学歴社会の現実と教育」、「社会生活の豊さと教育」、「国際化の時代と教育」といったテーマについて学生に問題意識を喚起する。</p>	
テキスト、教材、参考書			
授業の形式、視聴覚教材の活用		講義	
成績評価の方法			
メッセージ			

授業科目名	カウンセリング論	担当教官	大沢博
対象学生	2学年	学期及び曜日・時限	前期・水曜 III限
単 位	2単位	選 択	教室名
学習のねらい	援助のいとなみであるカウンセリングの基本を理解する		
回	講義題目	内 容	
		<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリングとは何か ・援助関係 ・カウンセリングと人間観 ・人間を認識する3つのアプローチ ・クライアントとカウンセラー ・カウンセリングのプロセス ・カウンセリングの体験的理解 	
テキスト、教材、参考書	「ケアの質を高める看護カウンセリング」 飯田澄美子他編 医歯薬出版		
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義 ビデオ 録音テープ スライド使用		
成績評価の方法	レポート		
メッセージ			

授業科目名	情報処理入門	担当教官	西谷 泉
対象学生	1 学年	学期及び曜日・時限	前期・集中講義 後期・月曜 I 限
単 位	2 単位	選 択	教室名
学習のねらい	統計学の基礎を学び、コンピュータを使って、統計処理ができるようにする。		
回	講義題目	内 容	
		<p>現代社会は高度情報化通信化社会である。医療の社会にも情報通信化の波は着実に押し寄せてきており、今後医療の世界に入ろうとしているものにとって、情報科学・情報処理技術の要素は不可欠である。本講義では「情報」の概念、及び「情報処理」、「統計学」の基礎を指導する。併せて「情報処理」の中心となる「コンピュータ」について基礎知識を指導する。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報とは何か 2. 情報処理の基本的知識 3. データ処理の方法 (統計学の基礎知識) 4. 医療における統計処理 5. コンピュータの歴史 6. コンピュータの基礎知識 7. コンピュータの使い方 8. インターネット等の活用 	
テキスト、教材、参考書	「Windows 対応一太郎 8」「Windows 対応一太郎 1. 2. 3」		
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義を中心に進めるが、実習もとりいれて進める		
成績評価の方法	試験・課題・出席状況を総合的に判断して、成績評価を行う。詳細は講義の中で説明する		
メッセージ	本講義は「情報処理入門演習」と連携して進めるので、「情報処理入門演習」も必ず受講すること。本講義を受講するにあたり、情報処理やコンピュータについて予備知識はとくに必要としない。		

授業科目名	情報処理入門演習	担当教官	西谷 泉
対象学生	1 学年	学期及び曜日・時限	前期・集中講義 後期・月曜 II 限
単 位	2 単位	選 択	教室名
学習のねらい	コンピュータを使って、文書作成、データ処理等の実習をし、実際にコンピュータが活用できるようにする。		
回	講義 題 目	内 容	
		<p>本講義では、講義「情報処理入門」の演習である。よって「情報処理入門」とセットで受講しなければならない。1 人 1 台のコンピュータを使用して演習する。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータの基礎知識 2. Windows について 3. ワードプロソフトの使い方 4. 表計算ソフトの使い方 5. 実例・演習を豊富に取り入れた情報処理の演習 	
テキスト、教材、参考書	「Windows 対応一太郎 8」 「Windows 対応ロータス 1. 2. 3」		
授業の形式、視聴覚教材の活用	実習を中心に進める。コンピュータは 1 人 1 台の形で使用するので希望者が多い場合は人数を制限することも考える。		
成績評価の方法	試験・課題・出席状況を総合的に判断して、成績評価を行う。詳細は講義の中で説明する。		
メッセージ	本講義は「情報処理入門」と連携して進めるので、「情報処理入門」も必ず受講すること。本講義を受講するにあたり、情報処理やコンピュータについての予備知識はとくに必要としない。		

授 業 科 目 名	数 学	担 当 教 官	石 井 満
対 象 学 生	1 学年	学 期 及 び 曜 日 ・ 時 限	前 期 ・ 木 曜 V 限
単 位	2 単 位	選 択	教 室 名
学 習 の ね ら い			
回	講 義 題 目	内 容	
		<p>現代数学は古典的な数学とは様相を異にしている。20 世紀に入ってから発達した現代数学はその扱う対象を抽象的な関係性そのものに拡大してきた。ここでは現代数学の歴史を振り返って、数学がどのように発展してきたのかを集合論、論理学などを題材にとり解説する。</p>	
テキスト、教材、参考書	プリント		
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義		
成績評価の方法			
メッセージ			

授 業 科 目 名	統 計 学	担 当 教 官	石 井 満
対 象 学 生	1 学年	学期及び曜日・時限	後期・木曜 V限
単 位	2 単位	選 択	教室名
学習のねらい			
回	講 義 題 目	内 容	
		<p>統計学は、情報収集によってとらえられる集団の特性をなるべく分かりやすく、一目瞭然に表す方法を研究したり、その結果を提供する学問である。どの資料や情報をどこからどのように集め、それをどのように整理分析して結論を導いていくという方法論を作り上げていくためには、どうしても統計学の知識が必要であり、ここに統計学の面白さと学問的意義がある。ナイチンゲールは、まさにこのことをずばり応用実践した最初の女性統計学者であった。彼女の統計学的業績を学び、看護研究に必要な統計の基礎知識と技術を習得する。</p>	
テキスト、教材、参考書		プリント	
授業の形式、視聴覚教材の活用		講義	
成績評価の方法			
メッセージ			

授 業 科 目 名	医療・看護と法律	担 当 教 官	内 藤 和 美
対 象 学 生	2 学年	学 期 及 び 曜 日 ・ 時 限	後 期 ・ 金 曜 V 限
単 位	2 単 位	必 修	教 室 名
学習のねらい	人々の健康を守るためのサービスと従事者の役割機能に関する基本的な法律について学び、法律に基づいて仕事をし、法律に基づいて問題を解決するということを具体的に理解する		
回	講 義 題 目	内 容	
1	法	法とは、法の目的と性格、法の支配と人権の保障	
2	法規	法規の概念、法規の種類、憲法－日本国憲法(1)	
3	法規	憲法－日本国憲法(2)、医療看護に関連する法規	
4	保健婦助産婦看護婦法	構造と付属法令、目的、定義、免許、業務	
5	保健婦助産婦看護婦法	医療過誤(1)	
6	保健婦助産婦看護婦法	医療過誤(2)	
7	保健婦助産婦看護婦法	医療事故	
8	医法・医師法	医療提供の理念、医療施設、診療に関する記録、医師の任務、免許、業務	
9	その他の関連専門職についての法規	理学療法士、作業療法士、検査技士、管理栄養士、臨床工学技士、精神保健福祉士、社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員	
10	薬事法規	理念、薬局、医薬品と医療器具の取り扱い、麻薬・向精神薬	
11	保健衛生法規	地域保健法、母子保健法、老人保健法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律	
12	予防衛生法規	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、結核予防法	
13	看護に関わりの深い環境衛生法規	食品安全衛生法、廃棄物処理法など	
14	看護に関わりの深い福祉関係法規	健康保険法、介護保険法、老人福祉法、児童福祉法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法	
15	労働法規	労働基準法、労働安全衛生法	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座「関係法規」 医学書院 参考書:看護六法		
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義中心		
成績評価の方法	3回の小試験、平常点		
メッセージ	後半は、他科目での学習を法律の面から見直してみる		

授業科目名	公衆衛生学	担当教官	内藤和美
対象学生	1学年	学期及び曜日・時限	後期・金曜 III限
単位	2単位	必修	教室名
学習のねらい	健康問題を個人的のレベルでとらえ対応する臨床のアプローチに対して、個々人の集合体である集団のレベルでとらえ対応しようとするアプローチである公衆衛生の見方、制度、活動、実態などを理解する		
回	講義題目	内 容	
1	公衆衛生の概念	公衆衛生の概念、課題としての「健康」、プライマリヘルスケア	
2	健康と環境因子	物理的環境因子、化学的環境因子、生物学的環境因子、発がん因子・環境変異原・催奇形性因子、社会的環境因子	
3	健康の指標－人口静態	日本人口、3区分別人口、人口の高齢化、世界人口	
4	健康の指標－人口動態	出生、死亡	
5	健康の指標－人口動態	死亡(続き)、婚姻と離婚、死産	
6	健康の指標－保健統計	平均余命・平均寿命、諸死亡率、罹患率・有訴者率・受療率	
7	健康問題の把握	疫学	
8	感染症対策	感染症の成立要件、「感染症の予防および感染症の患者に対する医療に関する法律」、感染源対策、感染経路対策、感受性対策	
9	生活習慣病対策	各種生活習慣病のリスク要因、曝露、疾病予防の4段階、健康教育、スクリーニング検査と精密検査	
10	環境保健	上水、下水、廃棄物処理	
11	環境保健	典型7公害、地球環境問題、環境保健対策	
12	地域保健	地域保健法、保健所、市町村保健センター	
13	母子保健	母子保健法、健康診査、保健指導	
14	学校保健	保健管理、保健教育、学校環境衛生、学校安全、学校給食	
15	産業保健	健康管理、作業管理、作業環境管理、労働災害補償	
テキスト、教材、参考書		プリントと『国民衛生動向 2000』による	
授業の形式、視聴覚教材の活用		主に講義による。プリントを綴るファイルを用意してください	
成績評価の方法		小テスト3回、平常点	
メッセージ		臨床と公衆衛生は健康問題へのアプローチの車の両輪です	

授業科目名	看護と社会福祉	担当教官	内藤和美
対象学生	1学年	学期及び曜日・時限	前期・火曜 IV限
単位	2単位	必修・選択必修・選択	教室名
学習のねらい	患者さんは、病を得た人である以前に生活者である。生活全般を視野に入れた看護をしていけるための基礎として、人としての尊厳と生活の質の確保にかかわる社会保障の考え方と諸制度の内容を学ぶ。		
回	講義題目	内 容	
1	社会保障の考え方(1)	生活自助原則、生活自助原則の限界、生活問題、生活保障、社会保障	
2	社会保障の考え方(2)	人としての尊厳、人権、生存権、生活の質、自他の両立	
3	社会保障の体系	経済的保障－公的扶助・社会保険(年金保険・雇用保険・労災補償保険)・社会手当、医療保障－社会保険(医療保険)、介護保障－社会保険(介護保険)、サービス－公衆衛生・医療、社会福祉	
4	公的扶助(1)	生活保護、生活保護の4基本原則、生活保護実施の3原則、保護の種類、保護の形態	
5	公的扶助(2)	被保険者の権利と義務、生活保護の動向、生活保護制度運用上の課題	
6	社会保険(1)	保険、社会保険、国民皆年金皆保険、年金保険、雇用保険、労働者災害補償保険	
7	社会手当、社会保険(2)	社会手当、医療保険	
8	社会保険(3)	介護保険	
9	児童福祉(1)	社会福祉、児童福祉の理念、児童福祉の法律と行政	
10	児童福祉(2)	児童福祉サービスの4体系	
11	障害者福祉(1)	障害の3次元、障害福祉の基本理念、日本の障害者、障害福祉の法律と行政、障害福祉の体系	
12	障害者福祉(2)	身体障害児者施策(肢体不自由・視覚障害・聴覚障害・内部障害) 知的障害児者施策、精神障害児者施策	
13	高齢者福祉(1)	高齢者福祉の法律と行政、施設福祉サービス	
14	高齢者福祉(2)	在宅福祉サービス	
15	社会福祉援助技術、社会福祉の人材	社会福祉援助技術(ソーシャルワーク)、社会福祉の専門職、社会福祉協議会	
テキスト、教材、参考書	プリントと『国民の福祉の動向 1999』(厚生統計協会)による		
授業の形式、視聴覚教材の活用	主に講義による。プリントを綴るファイルを用意してください		
成績評価の方法	小テスト(3回)、平常点		
メッセージ	看護と社会福祉は、ともに人の尊厳と生活質を支える社会保障の一部、両者はますます不即不離です		

授 業 科 目 名	家 族 論	担 当 教 官	内 藤 和 美
対 象 学 生	1 学年	学 期 及 び 曜 日 ・ 時 限	前 期 ・ 火 曜 II 限
単 位	2 単 位	必 修	教 室 名
学 習 の ね ら い	人の生存は相互依存の中にしかあり得ない。科目では、生活機能から感情まで、人と人の生活の共同性にかかわる諸事象を多元的にとりあげて考察し、見識を肥やす		
回	講 義 題 目	内 容	
1	“家族”をどうとらえるか	“家族”という概念の限界、これらをどうとらえるか	
2	近代以降の家族(近代家族について)(1)	近代家族の基本的性格、近代家族の機能	
3	近代家族について(2)	近代家族を支えてきたもの、近代家族の基本的不安定性	
4	家族の変化(1)	“家族の変化”とは何か、戦後の日本の“家族”の変化－戦前の制度・終戦から1950年代半ばまで	
5	家族の変化(2)	戦後の日本の“家族”の変化－高度経済成長期、低成長期	
6	家族の変化(3)	国際家族年に示された理念、日本の“家族”の今後	
7	“家族”と暴力－現状・問題・対応支援(1)	“家族”と暴力、児童虐待	
8	“家族”と暴力－現状・問題・対応支援(2)	ドメスティック・バイオレンス、老人虐待	
9	“家族”と法律－現状	現行家族法とこれをめぐる論点	
10	“家族”と法律－展望	家族法のこれから	
11	“家族”の経済学	“家族”の経済学的意味、“家族”の形成と解消をめぐる経済学	
12	共同性の3次元(1)	公共圏－公という共同性、“共”という共同性、親密圏－“家族”	
13	共同性の3次元(2)	親密圏と公共圏、患者をめぐる共同性	
テキスト、教材、参考書	講義はプリントによる。参考図書は授業時に紹介する		
授業の形式、視聴覚教材の活用	主に講義による。プリントを綴るファイルを用意して下さい。		
成績評価の方法	試験(レポート)、平常点		
メッセージ	ご自分の行き方とも関連づけて考えてくださればと思います。		

授 業 科 目 名	看護とコミュニケーション論	担 当 教 官	大 沢 博
対 象 学 生	1 学年	学期及び曜日・時限	後期・水曜 II 限
単 位	2 単位	選 択	教室名
学習のねらい	看護におけるコミュニケーションの重要性の理論的、実践的理解		
回	講 義 題 目	内 容	
		<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションとは何か ・看護におけるコミュニケーションの重要性 ・コミュニケーションの失敗例の分析 ・正確なコミュニケーション達成の方法 ・傾聴と反応 ・カウンセリングにおけるコミュニケーション ・共感的理解 	
テキスト、教材、参考書	「看護を生かす積極的傾聴法」 三島徳雄 メディカ出版		
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義 ビデオ		
成績評価の方法	レポート		
メッセージ			

授業科目名	経済学	担当教官	坂本俊造
対象学生	1学年	学期及び曜日・時限	前期・金曜 IV限
単位	2単位	選択	教室名
学習のねらい	現実の経済が生き生きとした動きを示すのに対して、経済学となるととかく退屈でつまらない授業になりがちです。経済を理解するには、歴史、利度、事実、理論の4つについてバランスのとれた知識が必要ですが、とかく理論に片寄ると退屈してしまいます。この授業では生きた経済に即して基礎的知識を重視したいと思います。入門編です。		
回	講義題目	内容	
	経済のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> ・経済を動かす要因 ・経済の規模と動きを示す GDP 	
	景気変動と経済成長	<ul style="list-style-type: none"> ・経済成長の原動力 ・好況/不況をもたらす要因 	
	経済の中・長期変動	<ul style="list-style-type: none"> ・日米経済逆転の理由 ・経済のサービス化とは 	
	価格変動の背景	<ul style="list-style-type: none"> ・モノの値段 ・物価変動の理由 ・インフレとデフレ 	
	超高齢化社会の問題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化の進展 ・社会保障、福祉政策の行方 	
	政府・日銀と経済	<ul style="list-style-type: none"> ・国の経済に対する役割 ・財政悪化の背景 ・金融政策の役割 	
	グローバル化と経済	<ul style="list-style-type: none"> ・円相場変動の理由 ・経済摩擦と WTO の機能 ・地域統合の進展 	
	産業・企業の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・産業構造の変化 ・企業再編成の動き 	
テキスト、教材、参考書	テキスト 大和総研 「経済のしくみ」 日本実業出版社		
授業の形式、視聴覚教材の活用			
成績評価の方法	期末試験を実施の予定		
メッセージ	生きた経済の動きをわかりやすく解説。		

授業科目名	世界の医療と福祉	担当教官	佐藤進
対象学生	2学年	学期及び曜日・時限	前期・土曜 I 限
単 位	2単位	選 択	教室名
学習のねらい	世界における保健医療と福祉の現状から、日本の現状と問題を、保健医療専門職の役割と在り方を考えたい。		
回	講義題目	内 容	
1	人間の社会と生活から世界の保健医療と福祉のかかわりをみて	世界の国々における保健医療と福祉とのかかわり 一分離とその連携をみてー 科目概要、授業の進め方、評価方法、参考書などオリエンテーション	
2	世界の国々の経済発展と「生活」の貧困と保健医療と福祉問題をみる	人間のくらしにみる生活諸事故と人間生活を不安にしている「貧困」原因としての疾病とその治療としての保健医療と福祉問題について	
3	生活と「貧困」と生活維持原則とそれぞれの対応	発展国と発展途上国にみる生活問題と「貧困」への対応として生活維持原則(私的扶養システム)とその保健医療と福祉	
4	世界の国々をみる人間のく生存の権利」とその公的な保障	世界の国々にみる人間のく生存の権利保障、く快適生活保障の思想 一人権尊重の問題と公的な生活保障(社会的扶養システム)体制の違いは	
5	生存の権利とく保健医療保障とく福祉サービス保障とは	く生存の権利におけるく保健医療保障とく福祉サービス保障とく生活環境保全・整備保障(日本の憲法 25 条(生存権)とは)	
6	生存の権利とく保健医療保障とく福祉サービスとは	く保健医療保障とく福祉サービス保障との意味とその違いとそれらをめぐる世界各国の制度政策をめぐって	
7	世界におけるく保健医療制度の現状ー主要欧米国と発展途上国とのーその問題(I)	世界におけるく保健医療制度、福祉制度の連携はどのような現状であるかー主要欧米諸国と発展途上国のーとその問題とはー世界の高齢社会と制度	
8	世界におけるく保健医療制度の現状(II)ー日本の保健医療制度とその現状と課題をみるー	世界の動向をみた上で、日本の保健医療システムを概観し、その現状と課題を考える	
9	世界におけるく福祉制度の現状(I)	世界における人間の生活とく福祉サービス制度はどのような状況にあるかー保健医療と対比して、福祉サービス制度の現状と問題を学ぶ	
テキスト、教材、参考書	講義時に紹介したい。世界の高齢者福祉政策(佐藤進著作集 10 巻)(信山社刊)(1999)		
授業の形式、視聴覚教材の活用			
成績評価の方法	試験実施(講義終了後)		
メッセージ	学生との対話講義をベースに、教員の一方通行講義は避けたい。 学生諸君の対話を通じて、そのリクエストと質疑に答える講義をしたい。		

回	講義題目	内 容
10	世界における〈福祉制度〉の現状(Ⅱ)	世界の福祉サービス制度の現状をみた上で、日本の〈福祉制度〉を概要し、その現状の問題を考える
11	高齢社会、少子社会と〈介護保障〉(Ⅰ)	日本・世界における高齢社会、少子社会の到来に対応して〈介護保障〉をめぐる制度や政策を学ぶ
12	高齢社会、少子社会と〈介護保険〉(Ⅱ)	日本における〈介護保険〉制度における〈保健医療〉と〈福祉〉サービス提供のシステムを学ぶ
13	世界の〈保健医療〉と〈福祉〉総括討議	
14	世界の〈保健医療〉と〈福祉〉総括討議	

授 業 科 目 名	英語 I (基礎英語・医学英語)	担 当 教 官	柏 木 恵 子
対 象 学 生	1 学年	学 期 及 び 曜 日 ・ 時 限	前 後 期 ・ 木 曜 Ⅱ ・ Ⅲ 限
単 位	2 単 位	必 修	教 室 名
学 習 の ね ら い	1. 基礎的な英語力の向上 2. 医療・看護の場面において使われる英語の簡単な専門用語や表現の学習		
回	講 義 題 目	内 容	
		現在、社会の様々な分野で「国際化」が叫ばれている状況であるが、医療の分野も例外ではなく、国際化、それに伴う外国語(特に「国際語」としての英語)の必要性はますます高まってきている。この授業においては、医療、看護の様々な場面を想定した英文を題材とし、基礎的な英語力の向上を図りながら、医療・看護の簡単な専門用語や、関連する英語表現を学んでいく。	
テキスト、教材、参考書	Graded Reading and Conversation Series for Nurses, Drade 3 著者: Hubert.H.Setzler, Jr., Cheie A. Hale, 鈴木伝次 医学書院		
授業の形式、視聴覚教材の活用			
成績評価の方法	出席状況、前・後期末試験、小テストによる総合評価		
メッセージ	授業のとき、毎回、英和辞典を持ってきてください。		

授 業 科 目 名	英語Ⅱ (オーロライングリッシュ)	担 当 教 官	澤 田 只 夫
対 象 学 生	2 学年	学 期 及 び 曜 日 ・ 時 限	前 期 ・ 木 曜 V 限 金 曜 I 限 後 期 ・ 水 曜 II ・ III 限
単 位	2 単 位	選 択	教 室 名
学 習 の ね ら い			
回	講 義 題 目	内 容	
		* 講義中に提示する	
テキスト、教材、参考書			
授業の形式、視聴覚教材の活用			
成績評価の方法			
メッセージ			

授 業 科 目 名	英語Ⅲ(外書購読)	担 当 教 官	柏 木 恵 子
対 象 学 生	2 学年	学期及び曜日・時限	前後期・木曜 IV限
単 位	2 単位	選 択	教室名
学習のねらい	1. 英文読解力の向上 2. 今後の医療、看護のあり方を考える		
回	講 義 題 目	内 容	
		<p>現代社会において、医療技術は日々進歩し、健康に注意を払う人々も非常に増えている。しかし、便利で豊かな生活を営む反面、様々なストレスや自然環境の汚染、化学物質などにさらされ、現代人は心身ともに病んだ状態に陥りやすくなっている。この授業では、英文読解力をより向上させるとともに、医療や健康に関する最近の話題を扱った文章を読むことによって、これからの医療・看護のあり方を考えるきっかけにもしていく。</p>	
テキスト、教材、参考書	テキスト Healte Care Today (英語で学ぶ医療と健康) 編著者: 西村月満、高津昌宏、関口章子、James W. Ragal 朝日出版社		
授業の形式、視聴覚教材の活用			
成績評価の方法	出席状況、前・後期末試験、小テストによる総合評価		
メッセージ	授業のとき、毎回、英和辞典を持ってきてください。		

授業科目名	医学概論	担当教官	岡田了三
対象学生	1学年	学期及び曜日・時限	前期・金曜 I 限
単位	1単位	必修	教室名
学習のねらい	医科学、医術、疾病の診断・治療・予防・リハビリテーション、看護学と医学の関連、医学周辺の各種職業、福祉について考える。		
回	講義題目	内容	
1	医学と医科学	医学と看護学、医学内の分科、基礎医学と臨床医学	
2	医学の周辺	医療関係職、医療形態、医療行政、医療産業	
3	医の倫理	医道、仁術、生涯学習、秘密厳守、ヒポクラテスの誓い	
4	行政と医療	厚生省の業務、衛生統計、保険医療	
5	医学の歴史	中世から近世までの主な生物学的発見と医学への応用	
6	現代の医学	20世紀の医学の進歩、現状の問題点	
7	疾病の診断	病歴の聴取、診察、理学所見、病状、症候、症候群	
8	病歴の記載	POMR、SOAP、クリティカルパス、医学情報の整理と公開	
9	臨床検査(1)	一般、特殊、非観血的、観血的	
10	臨床検査(2)	検査成績の読み方、正常と異常	
11	診断名、鑑別診断	機能、形態、病因診断、合併症、誘因、素因	
12	治療(1)	原因療法、対症療法、予防対策、非薬物療法、観血療法	
13	治療(2)	薬物療法、主な薬品と使用法	
14	医療のシステム	プライマリーケア、リハビリテーション、ターミナルケア、救命・救急医療	
テキスト、教材、参考書	n系統看護学講座、専門基礎 1. 医学概論(日野原重明著)医学書院 各項目毎のプリント配布		
授業の形式、視聴覚教材の活用	35 mmスライド使用		
成績評価の方法	ペーパーテスト(国試の様式を用いる)		
メッセージ	テキストのみでなく、講義各項目毎に参考書を使って自習すること		

授業科目名	病理学	担当教官	岡田了三
対象学生	1学年	学期及び曜日・時限	後期・金曜 IV限
単位	1単位	必修	教室名
学習のねらい	疾患の形態学、病因と表現型の多様性、病変の可逆性・非可逆性、疾病時に体内に発生する病変を具体的に理解すること。		
回	講義題目	内 容	
1	病理学の方法論	病理解剖、外科標本、生検標本:組織学的診断法	
2	病因論(病理概論)	炎症、変性、壊死、腫瘍、循環障害	
3	循環器疾患(1)	動脈硬化、虚血性心疾患、心筋症、弁膜症、先天性心奇形	
4	循環器疾患(2)	高血圧、不整脈、大動脈瘤、動脈炎、静脈炎	
5	呼吸器疾患	鼻炎、上気道炎、気管支炎、肺炎、気管支喘息、肺結核症、肺癌、自然気胸	
6	消化管疾患	口内炎、食道癌、胃炎、胃・十二指腸潰瘍、胃癌、腸炎、クローン病潰瘍性大腸炎、結腸癌、イレウス、虫垂炎、痔疾患	
7	肝・胆道・膵疾患	肝炎、肝硬変、肝癌、胆のう炎、胆石症、膵炎、膵癌、糖尿病	
8	泌尿・生殖器疾患	糸球体腎炎、腎盂腎炎、ネフローゼ、腎硬化症、尿路結石、膀胱炎前立腺腫瘍、乳癌、卵巣腫瘍、子宮筋腫、子宮癌、性感染症	
9	内分泌・代謝系疾患	下垂体線腫、甲状腺炎、甲状腺癌、副腎腫瘍、アミロイドーシス、痛風高脂血症	
10	神経系疾患	脳出血、脳梗塞、髄膜・脳炎、パーキンソン病、アルツハイマー病、多発性硬化症、脳腫瘍、神経線維腫	
11	血液・リンパ系疾患	貧血、白血病、骨髄腫、リンパ節炎、リンパ腫、血友病、紫斑病、DIC	
12	運動器疾患 皮膚疾患・感覚器疾患	骨折、骨粗鬆症、骨髄炎、骨腫瘍、椎間板ヘルニア、スポーツ障害じんま疹、皮膚癌、中耳炎、白内障、緑内障、角膜炎	
13	免疫疾患	免疫不全、アレルギー、自己免疫疾患(膠原病と類縁疾患)、川崎病	
14	奇形と遺伝子疾患	レックリングハウゼン病、マルファン病、網膜色素変性、進行性筋ジストロフィー、トリソミー(ダウン症)、ターナー病、ADA 欠損症、ミトコンドリア病、サリドマイド症、奇形症候群、胎児感染症、素因の遺伝	
テキスト、教材、参考書		n系統看護学講座、専門基礎4. 疾病のなりたちと回復の促進[1]病理学. 医学書院. 各項目毎のプリント配布	
授業の形式、視聴覚教材の活用		35 mm スライド使用	
成績評価の方法		ペーパーテスト(国試の方式に従う)	
メッセージ		テキストのみでなく、講義各項目毎に参考書を使って自習すること。	

授 業 科 目 名	病 態 学	担 当 教 官	浅 原 広 澄
対 象 学 生	2 学 年	学 期 及 び 曜 日 ・ 時 限	
単 位	2 単 位	必 修	教 室 名
学 習 の ね ら い			
回	講 義 題 目	内 容	
		* 講 義 中 に 提 示 す る	
テ キ ス ト 、 教 材 、 参 考 書			
授 業 の 形 式 、 視 聴 覚 教 材 の 活 用			
成 績 評 価 の 方 法			
メ ッ セ ー ジ			

授業科目名	微生物学	担当教官	澤田 只夫
対象学生	1 学年	学期及び曜日・時限	後期・水曜 I 限 木曜 I 限
単 位	2 単位	必 修	教室名
学習のねらい	微生物の性質、病原性、そしてそれによる感染症について系統的に学習し、特に看護におけるその理解の大切さとそれに対する対応の仕方と予防の基礎について学ぶ。また、中でも日本だけでなく国際的にも重大な医療上の問題に注目し院内感染、新興感染症(再興感染症)および薬剤耐性菌の出現など、その理解に必要な基礎知識をも学習する		
回	講義題目	内 容	
1	1) 序論 (微生物学のなりたち)	微生物学とは(病原微生物と看護)/微生物学の歩み(近代微生物学のいしずえ)/生物学上の位置	
2	2) 細菌学総論	形態(大きさ・形・空間配列)と菌体の化学的組成(染色性・構造・組成)	
3		物理的・化学的環境および栄養と物質代謝	
4		感染と発病(感染と感染症/感染・発病を規定する因子/常在細菌叢/感染源と感染経路)	
5		滅菌と消毒(滅菌法/消毒と消毒薬/消毒薬の検定法/消毒の実際)	
6		化学療法Ⅰ(定義/化学療法の歩み/抗細菌性化学療法薬・抗真菌性化学療法薬・抗ウイルス性化学療法薬・抗がん性抗生物質)	
7		化学療法Ⅱ(薬剤感受性試験/抗菌スペクトル/耐性菌/化学療法薬の使用にあたっての注意事項)	
8		伝染病の予防(伝染病に対する処置/伝染経路に対する処置/個人的予防対策/集団的予防対策/院内感染/感染症のサーベイランス(感染症監視))	
9		細菌学的検査法(顕微鏡/培養検査法/細菌の固定法/微生物の保存)	
10		3) 免疫学	免疫応答の成立(免疫とは/免疫の種類/免疫系と免疫応答/抗原/抗原の認識/免疫の促進と抑制/免疫不全症候群)
11	液性免疫(抗体/抗原抗体反応)と細胞性免疫(細胞性免疫/移植免疫と腫瘍免疫)		
12	感染防御免疫(感染防御免疫の種類/予防接種/血清療法および免疫グロブリン療法)と免疫病(過敏症/自己免疫疾患)		
テキスト、教材、参考書		系統看護学講座「微生物学」 医学書院	
授業の形式、視聴覚教材の活用		講義中心で進める	
成績評価の方法		中間及び期末の筆記試験により評価	
メッセージ		講義の予定範囲を予習し、また講義後には、復習により十分理解するように心掛ける	

回	講義題目	内容		
13		レビューセッション		
14	4) 細菌学各論	グラム陽性球菌(ブドウ球菌属/レンサ球菌属)とグラム陰性球菌および球状桿菌(ナイセリア属/モラクセラ属/ペイオネラ属)		
15				
16			グラム陰性好気性桿菌(シュードモナス属およびその類縁菌/ブルセラ菌/ボルデテラ菌/フランシセラ属/レジオネラ属)	
17			グラム陰性通性嫌気性桿菌(脹内細菌科/ビブリオ科/ヘモフィルス属)	
18			無芽胞偏性嫌気性菌(偏性嫌気性菌/無芽胞グラム陰性嫌気性菌/無芽胞グラム陽性嫌気性菌) グラム陽性無芽胞桿菌(乳酸菌属/リステリア属・エリジペロスリックス属/コリネバクテリウム属/マイコバクテリウム属/放線菌類)	
19			グラム陽性芽胞形成桿菌(バシラス属/クロストリジウム属) カンピロバクターとヘリコバクター(カンピロバクター属/ヘリコバクター属/スピリルム)	
20			リケッチア(発疹チフスリケッチア/発疹熱リケッチア/ロッキー山紅斑熱リケッチア 日本紅斑熱リケッチア/つつが虫病リケッチア/Q熱コクシエラ クラミジア(クラミジアートラコマチス/クラミジア-シッタシ/クラミジア-ニューモニエ) マイコプラズマ	
21			5) ウイルス学 ウイルス学総論	ウイルスの特性と定義/ウイルスの構造/増殖/分類/ウイルスと宿主とのかかわり 合い
22				ウイルス感染症の実験室診断/ウイルス感染症の治療と予防/腫瘍(がん)ウイルス/ プリオンとプリオン病/エマージングウイルスとリエマージングウイルス
23			ウイルス学各論	DNA ウイルス(ポックスウイルス科/ヘルペスウイルス科/アデノウイルス科/パポ ーバウイルス科/パルボウイルス科/ヘパドナウイルス科)
24	RNA ウイルス I (オルトミクソウイルス科/パラミクソウイルス科/ラブドウイルス科/ フィロウイルス科/ピコルナウイルス科/レオウイルス科/トガウイルス科)			
25	RNA ウイルス II (フラビウイルス科/コロナウイルス科/カリシウイルス科/アストロウ イルス科/ブニヤウイルス科/アレナウイルス科/レトロウイルス科/肝炎ウイルス/ 細菌ウイルス(バクテリオファージ)			
26	6) 真菌学	真菌学総論(細菌との違い/形態/培養/抵抗力/病原性/真菌の化学療法薬/ 検査法/分類)		
27		各種の病原真菌(接合菌類/子囊菌類/担子菌類/不完全菌類/皮膚糸状菌 類)		
28	7) 原虫学	根足虫類/鞭毛虫類/孢子虫類/繊毛虫類/その他		

授業科目名	薬理学	担当教官	澤田孝子
対象学生	2学年	学期及び曜日・時限	前後期・金曜 II限
単位	2単位	必修	教室名
学習のねらい	薬物使用の長所と短所 薬物使用における生体への影響、基本的な知識を習得する		
回	講義題目	内 容	
1		薬理学の概念: 薬理学とはなにか、薬の歴史、医薬品の法令	
2		薬理作用、薬の効力	
3		薬の有害作用及びその適用	
4		化学療法薬に関する基礎事項	
5		抗生物質各論、合成化学療法薬	
6		特殊の感染症の治療薬、がんの化学療法	
7		免疫抑制薬、消毒薬その他	
8		中間試験	
9		神経による情報伝達、自立神経系と薬の作用	
10		交感神経作用薬、副交感神経作用薬	
11		筋弛緩薬、局所麻酔薬	
12		中枢神経系の働きと薬物、全身麻酔薬、催眠薬・抗うつ病	
13		パーキンソン症候群治療薬、抗てんかん薬、麻酔性鎮痛薬	
14		前期試験	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座「薬理学」 医学書院、「ナースのための薬の知識」 照林社		
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義中心におこなう ビデオの活用		
成績評価の方法	中間試験および期末の考査、ホップテストなどで評価する		
メッセージ			

回	講義題目	内容
1		オータコイドとは何か、ヒスタミンと抗ヒスタミン薬
2		炎症とは何か、非ステロイド性抗炎症薬
3		副腎皮質ステロイド、痛風治療薬、レニン-アンギオテンシン系
4		ジギタリス、狭心症治療薬、抗不整脈薬
5		抗高血圧薬、抗動脈硬化薬-血管拡張薬
6		利尿薬、血液および造血器官に作用する薬物
7		中間試験
8		呼吸器系に作用する薬物
9		消化器系に作用する薬物、生殖器系に作用する薬物
10		ホルモンおよびホルモン拮抗薬
11		ビタミン製剤、生物学的製剤
12		救急の際に使用される薬物、漢方薬、高齢者の薬理
13		検査薬・診断薬
14		後期試験

授 業 科 目 名	リハビリテーション概論	担 当 教 官	坂 本 雅 昭
対 象 学 生	2 学年	学 期 及 び 曜 日 ・ 時 限	後 期 ・ 水 曜 IV 限
単 位	1 単 位	選 択	教 室 名
学 習 の ね ら い	<p>「リハビリテーション」の本来の意味を知るために、リハビリテーションの理念、歴史、対象、方法、実際の流れ、医学における位置づけなどについて理解する。また、リハビリテーションの対象となる「障害」について理解する。</p> <p>各論として脳血管障害のリハビリテーション、整形外科的疾患に対するリハビリテーション、障害者スポーツなどについて理解する。</p>		
回	講 義 題 目	内 容	
1	総論 1	リハビリテーションの歴史・定義について解説する。	
2	総論 2	リハビリテーションの対象と障害論について解説する。	
3	総論 3	リハビリテーションの方法(チーム・評価)と流れについて解説する。	
4	総論 4	地域におけるリハビリテーションについて解説する。	
5	各論 1	脳血管障害による片麻痺患者のリハビリテーションの実際について解説する。	
6	各論 2	骨関節疾患患者のリハビリテーションの実際について解説する。	
7	各論 3	下肢切断患者のリハビリテーションの実際について解説する。(障害者スポーツ含む)	
テキスト、教材、参考書	<p>テキスト: 特に定めない</p> <p>参考書: 目で見えるリハビリテーション医学: 上田 敏 : 東京大学出版</p> <p>リハビリテーション: 砂原茂一: 岩波書店</p>		
授業の形式、視聴覚教材の活用	ビデオ教材を 2 回使用予定		
成績評価の方法	レポート、テスト		
メッセージ	専門教養科目と考え、気楽に授業に参加してほしい。また、授業内容等で希望があれば遠慮せずに伝えてほしい		

授業科目名	救命救急医療	担当教官	矢嶋和江
対象学生	2学年	学期及び曜日・時限	後・木曜 I 限
単 位	1単位	選 択	教室名
学習のねらい	1. 救急医療における今日的課題、救急領域の実態と問題点を理解する 2. 救急状況をもたらす原因(状況)と、救急状況にある人の特徴が理解でき、それに対処するための救急時の看護を学ぶ		
回	講義題目	内 容	
1 ～ 3	救急医療と看護	1. 救急医療の変遷と今日の課題について概説する 2. 救急患者の特徴と、救急患者を取り巻く環境について理解する * 討論:救急状況について 3. 救急看護の特性と求められる看護婦の役割を知る 冷静さ、沈着性、患者家族のプライバシー、人間の尊厳	
4 ～ 6	救急の病態とアセスメントの視点	1. 生命の危機状況とその判断基準 何を観察するのか、何が必要なのか 2. 救急状況に於ける心理的・身体的(社会的)状況 ストレス、危機理論、不安と混乱状況について	
7 ～ 10	救急処置と看護 *CPR の実際	1. 応急救命処置について(1次救命・2次救命) (シュミレーターによる救急蘇生法の演習) 2. 全身管理に必要な看護技術 ①循環管理 ②体液管理(輸液と輸血) 3. 救急時に用いられる医薬品の種類と期待する効果について学習する 4. 救急検査の内容と優先順位 5. 救急手術への対応	
11 ～ 14	重篤な病態の把握と観察	1. 呼吸不全の病態と看護観察のポイント 2. 循環不全の病態と看護観察のポイント 3. 意識障害の病態と看護観察のポイント 4. 重症感染症の病態と看護観察のポイント	
15	まとめ	1. 救急状況における看護婦の役割 求められる知識・技術・態度 2. 人間の尊厳に対する姿勢 脳死や臓器移植、医療者の守秘義務	
テキスト、教材、参考書	系統的看護学講座「救急看護学」・プリント、参考文献随時定時		
授業の形式、視聴覚教材の活用	VTR		
成績評価の方法	ペーパーテスト、出席状況・演習等の総合評価による		
メッセージ	予習復習は必ずする。授業中の疑問は進行の妨げにならない範囲で随時質問は受ける。ただし私語の多い学生には退室を命じることもある		

授業科目名	看護学の基礎	担当教官	梅林 奎子
対象学生	1学年	学期及び曜日・時限	前期・火曜 I 限
単 位	1単位	必 修	教室名
学習のねらい	<p>看護全般の概念を理解し、保健・医療・福祉サービスにおける看護の位置づけと看護の役割を認識する。更に専門職業人としての認識をもち、資質を養う。</p> <p>このために、人間とは、健康とは、看護とは、環境とはの概念を学び、看護を実践するための基礎知識として看護の目的、対象、方法などを学ぶ。</p> <p>また、看護の歴史的変遷をとらえて看護の本質を学び、学生自ら看護観を構築していくための一助とする。</p>		
回	講義題目	内 容	
1	看護職への期待と看護活動の基本概念	<p>1 看護学を学ぶにあたって保健・医療・福祉サービスにおける看護職への期待</p> <p>2 看護教育過程と基礎看護学の位置づけ</p> <p>3 人間・健康・環境・看護の基本概念の理解の必要</p>	
2	健康と看護	<p>1 健康の概念、健康観、健康の成立条件、健康と環境条件</p>	
3		<p>2 個人の健康と集団の健康</p> <p>3 健康の水準と保健受診行動と看護</p> <p>・健康障害と身体、心理、社会的変化(臨床看護総論に委ねる)</p>	
4		<p>1 看護の定義</p> <p>2 看護の概念の変遷と看護理論</p>	
5	看護の対象	<p>1 看護の対象＝全体としての人間</p>	
6		<p>2 人間とは ヒトと人間、社会的存在としての人間、文化と人間</p>	
7		<p>3 ライフサイクルとライフステージと特徴、発達課題、人間と欲求</p> <p>4 環境とは 5 個人・家族・社会 6 人間と環境と適応</p> <p>・患者と家族の理解と援助 (臨床看護総論に委ねる)</p> <p>・患者・家族と看護者との関係</p>	
8	看護の活動の概要	<p>1 看護活動が行われている場</p>	
9		<p>2 総合保健医療のなかの看護</p> <p>総合保健医療とは</p> <p>プライマリーヘルスケア、ヘルスプロモーション、保健・医療・福祉サービスシステム、保健・医療・福祉の連携強化の重要性と看護の活動</p>	
10	専門職業人としての看護職	<p>1 看護職者、専門職の要件、看護の専門職性</p> <p>2 専門職と倫理</p>	
	看護の機能・役割	<p>1 看護の法的規定(保助看法による)</p> <p>2 看護の独自の機能</p>	
テキスト、教材、参考書	<p>系統看護学講座 基礎看護学1 医学書院</p> <p>児玉香津子他 看護覚書 日本看護協会出版会</p> <p>湯楨ます他 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会</p>		
授業の形式、視聴覚教材の活用	OHP・VTR・プリント		
成績評価の方法	定期試験及び課題レポート、平常考査で総合的に評価する		
メッセージ	<p>いよいよ専門の学習が始まります。土台づくりが大切です。</p> <p>看護の考え方を一步一步きずいてください。</p>		

回	講義題目	内 容
11 12 13	看護の変遷	1 看護の歴史を学ぶ意味 看護の独自の機能と役割 2 ナイチンゲール以前の看護(看護の起源・看護と宗教・看護と戦争) 3 ナイチンゲールと近代看護と職業としての看護 4 日本の看護の変遷 5 アメリカの看護・看護理論の発達 6 看護制度の変遷・看護教育 7 看護の専門職化とこれからの看護 8 看護の国際協力の動向(他の科目に委ねる)
14	看護の活動の方法	看護過程 a 意義 b 対象の把握 科学的思考としての看護過程 c 看護問題の明確化 看護の方法論としての看護過程の理解 d 看護の実施計画 (看護技術Ⅲで講義・演習実施) e 評価
15	看護の管理	1 看護管理とは 2 病院における看護管理(看護単位、看護方式等) (基礎実習に関連する範囲とする) 看護と研究(看護の学問的体系の確立) (他の科目に委ねる)

授業科目名	看護理論の基礎	担当教官	鹿村真理子
対象学生	2学年	学期及び曜日・時限	後期・金曜 I 限
単 位	1単位	必 修	教室名
学習のねらい	看護理論の基礎を学ぶことにより、看護の本質を考える手がかりにする		
回	講義題目	内 容	
1	看護理論とは	看護理論とは	
2	ナイチンゲール	フローレンス・ナイチンゲールの看護理論	
3	ヘンダーソン	バージニア・ヘンダーソンの看護理論	
4	ウィーデンバック	アーネスティン・ウィーデンバックの看護理論	
5	ペプロウ	ヒルデガード・E・ペプロウの看護理論	
6	ロジャース	マーサ・E・ロジャースの看護理論	
7	オレム	ドロセア・E・オレムの看護論	
8	ロイ	シスター・カリスタ・ロイの看護理論	
9	レイニンガー	マドレイン・M・レイニンガーの看護理論	
10	グループ討議	看護理論を一つ選び、その枠組みと特徴についてグループ討議する	
11	グループ討議	同上	
12	グループ討議	同上	
13	グループ討議	同上	
14	発表	グループ毎に発表する	
15	発表	同上	
テキスト、教材、参考書	黒田裕子: やさしく学ぶ看護理論 日総研		
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義及びグループワーク VTR 使用		
成績評価の方法	レポート提出 筆記試験 出席状況		
メッセージ	難しく考えずに、看護の先輩たちが何を言おうとしているのかを考えるきっかけにしてください		

授 業 科 目 名	基 礎 看 護 技 術 I	担 当 教 官	鹿 村 眞 理 子
対 象 学 生	1 学 年	学 期 及 び 曜 日 ・ 時 限	前 期 ・ 月 曜 III ・ IV 限
単 位	2 単 位	必 修	教 室 名
学 習 の ね ら い	人 間 の 健 康 に 関 わ る 生 活 行 動 を 理 解 し、 健 康 の 保 持 ・ 増 進 お よ び 回 復 に 役 立 つ 基 本 的 な 援 助 技 術 を 習 得 す る。 ま た 援 助 の 受 け 手 と 与 え 手 の 人 間 関 係 に つ い て の 方 法 を 学 ぶ		
回	講 義 題 目	内 容	
1	看 護 技 術 と は	看 護 技 術 と は	
2	環 境	人 間 を と り ま く 環 境 を 理 解 し、 環 境 調 整 時 に お け る 看 護 婦 の 役 割 を 学 ぶ	
3	病 床 の 整 備	病 床 の 意 義 ・ ベ ッ ト メ ー キ ン グ の 種 類 と 方 法 な ど に つ い て 学 ぶ	
4	衣 生 活	衣 生 活 の 意 義 ・ リ ネ ン 管 理 に お け る 看 護 婦 の 役 割 に つ い て 学 ぶ	
5	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン の 技 法 と 看 護 へ の 適 応 に つ い て 学 ぶ	
6	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	ロ ー ル ・ プ レ イ ン グ に つ い て 学 習 し、 人 間 関 係 の 擬 似 体 験 を す る	
7	清 潔	皮 膚 粘 膜 の 解 剖 ・ 生 理 の 知 識 を 基 に 清 潔 の 意 義 ・ 種 類 ・ 方 法 な ど に つ い て 学 ぶ。 対 象 の 生 活 習 慣 を 把 握 し、 清 潔 の 適 切 な 援 助 方 法 を 考 え る	
8	清 潔	全 身 清 拭 ・ 部 分 浴 ・ 洗 髪 に つ い て 演 習 し、 相 互 評 価 す る	
9	清 潔	口 腔 ケ ア ・ 陰 部 ケ ア な ど に つ い て 演 習 し、 相 互 評 価 す る	
10	姿 勢 と 体 位	安 楽 な 体 位 と 動 作 の 経 済 性 を 高 め る 技 術 に つ い て 学 ぶ	
11	姿 勢 と 体 位	姿 勢 と 体 位 ・ 移 動 技 術 に つ い て 演 習 す る	
12	活 動 と 休 息	睡 眠 の 生 理 を 学 び 個 人 の 睡 眠 習 慣 を 把 握 す る。 睡 眠 と 安 息 の 援 助 方 法 を 考 え る。 レ ク リ エ ー シ ョ ン お よ び 身 体 運 動 に つ い て も 学 ぶ	
13	栄 養 と 食 事	栄 養 と 食 事 の 生 理 的 意 味 を 理 解 す る と と も に、 対 象 の 食 生 活 習 慣 を 把 握 す る。 食 事 の 適 切 な 援 助 方 法 に つ い て 学 ぶ	
14	栄 養 と 食 事	さ ま ざ ま な 栄 養 法 の 実 際 に つ い て 学 ぶ	
15	実 技 試 験	実 技 試 験	
テ キ ス ト、 教 材、 参 考 書	薄 井 担 子 他： 系 統 看 護 学 講 座 基 礎 看 護 学 (2) 基 礎 看 護 技 術 医 学 書 院 池 田 明 子 訳： コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン、 日 本 看 護 協 会 出 版 会 北 米 看 護 診 断 協 会： N A N D A 看 護 診 断 定 義 と 分 類 医 学 書 院		
授 業 の 形 式、 視 聴 覚 教 材 の 活 用	講 義 お よ び 演 習 V T R 使 用		
成 績 評 価 の 方 法	リ ポ ー ト 提 出、 実 技 試 験、 筆 記 試 験、 演 習 中 の 態 度、 出 席 状 況		
メ ッ セ ー ジ	7 月 に は 基 礎 看 護 学 実 習 I が あ り ま す。 対 象 に 接 す る た め に 必 要 な 基 本 的 な 看 護 技 術 を 学 ん で お き ま し ょ う		

授業科目名	基礎看護技術Ⅱ	担当教官	鹿村真理子
対象学生	1学年	学期及び曜日・時限	後期・月曜Ⅳ・Ⅴ限
単位	2単位	必修	教室名
学習のねらい	対象をより専門的な目で把握するために必要な観察の技術および臨床看護に必要な診療の援助技術を習得する。さらに対象の生と死について学習する。		
回	講義題目	内 容	
1	排泄	排泄の生理と観察法について学ぶ。個人の排泄パターンを知り、それが変調をきたした際の援助法について考える	
2	排泄	排泄障害をきたした際の援助技術について学ぶ	
3	排泄	排泄の援助技術(便尿器の与え方・浣腸・導尿等)について演習し、相互評価する	
4	バイタルサインズ	診療時の看護婦の役割を学ぶ。観察の技術として重要なバイタルサインズ(体温・脈拍・心拍・血圧・呼吸等)の意義について学ぶ	
5	バイタルサインズ	バイタルサインズの測定法について学ぶ	
6	バイタルサインズ	バイタルサインズについて演習し、相互評価する。あわせて記録や評価のしかたについても学ぶ	
7	電法	電法の基礎的知識と方法について学び、電法による皮膚温の変化についても演習する	
8	吸引と吸入	吸引と吸入の方法と効果的な援助方法について学ぶ	
9	身体各部の計測	身長・体重・胸囲・腹囲などの身体機能の計測の方法について学ぶ	
10	包帯	対象者に適した材料での的確な包帯を装着する技法を修得する	
11	安全	安全工学におけるフェイル・セイフの考え方を紹介し、医療における安全性について考える。感染予防では、手の衛生の3つの側面について学習する	
12	与薬	薬物療法についての的確な知識と技術を習得し、看護婦の役割について学ぶ	
13	与薬	輸液の準備と介助法、皮内注射・皮下注射・筋肉注射について演習する	
14	検査	検査時における看護婦の役割について学ぶ	
15	実技試験	実技試験	
テキスト、教材、参考書	薄井担子他:系統看護学講座 基礎看護学(2) 基礎看護技術 医学書院 北米看護診断協会:NANDA 看護診断 定義と分類 医学書院		
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義及び演習 VTR 使用		
成績評価の方法	レポート提出、実技試験、筆記試験、演習中の態度、出席状況		
メッセージ	人に対して“何かができる”という力を身につけることは素晴らしいことです。ここでしっかり技術を自分のものにしてください		

授業科目名	基礎看護技術Ⅲ	担当教官	鹿村真理子
対象学生	2学年	学期及び曜日・時限	前期・水曜 I限 火曜 II限
単位	2単位	必修	教室名
学習のねらい	よりよい看護を実践するための観察および記録の方法について学ぶ。事例を通して基本的なアセスメント能力や観察能力を育成し、科学的問題解決法としての看護過程の展開の技術を習得する。さらに専門家としての役割を担うために、カウンセリング、健康教育についても学ぶ		
回	講義題目	内 容	
1	カウンセリング	看護におけるカウンセリングの位置づけとその技法について学ぶ。リラクゼーションの方法についても学ぶ	
2	医療における死	民俗学かたみた死、安楽死裁判を通しての死などから死について考える	
3	健康教育	健康教育の歴史、教育診断的アプローチについて学ぶ	
4	健康教育	指導型の教育と学習援助型の教育の違いについて学び、糖尿病教育について紹介する	
5	観察	観察の技術、方法、用語について学ぶ	
6	観察	観察の方法を事例を通して学ぶ	
7	記録	記録の重要性、記録の種類、記録上の注意、記録の管理、報告、審査等について学ぶ	
8	記録	POS やフォーカスチャータリング等の記録の実際について学ぶ	
9	記録	プロセスレコードの方法を事例を通して学ぶ	
10	看護過程	看護過程を学習する意義、構成要素、用語等について学ぶ	
11	看護過程	問題解決法、クリティカルシンキング、意思決定など看護過程を展開するために基本となる考え方について学ぶ	
12	看護過程	情報の分析、アセスメント、看護問題の抽出(看護診断)、計画立案、実施、評価について学ぶ	
13 ～ 15	看護過程	事例を通して看護過程を展開する	
テキスト、教材、参考書	薄井担子他:系統看護学講座 基礎看護学(2) 基礎看護技術 医学書院 北米看護診断協会:NANDA 看護診断 定義と分類 医学書院 古橋洋子:PONR・看護診断 日総研		
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義及び演習		
成績評価の方法	レポート提出、筆記試験、演習中の態度、出席状況		
メッセージ	いよいよ看護学の核心に入ります。ここで学んだことが看護婦としての一生を左右するといってもよいでしょう。難しいけれどやりがいもあります。		

授 業 科 目 名	臨床看護総論 ① －患者と家族の理解－ －継続看護－	担 当 教 官	梅 林 奎 子
対 象 学 生	1 学年	学期及び曜日・時限	前期・木曜 Ⅱ・Ⅲ限 後期・木曜 Ⅱ・Ⅲ限
単 位	2 単位	必 修	教室名
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> 健康障害をもつ患者と家族について理解する。 健康障害(病気)に伴う身体的、精神的、社会的変化と看護上の問題について理解する。 病気の受容過程及び健康問題解決のための援助について学ぶ 継続看護とはなにか、及び継続看護の重要性を理解する。 継続看護への働きかけやシステムづくりについて事例をとおして学ぶ 継続看護における看護の役割について学び、これからの看護の方向性について考える 		
回	講 義 題 目	内 容	
1 2 3	健康障害をもつ患者・家族	<p>家族とは、家族周期と発達課題、健康上のニーズ、家族の役割と生活(家族論の既習学習を活用)</p> <p>各ライフステージにある患者・家族の健康問題</p> <p>人間にとっての病気・健康障害と受容過程及び危機状況の克服過程</p>	
4 5	健康障害に伴う変化と看護	<p>健康障害に伴う身体的、心理的、社会的変化と看護</p> <p>ストレスとコーピング、自己概念の変化</p> <p>コンプライアンスとノンコンプライアンス、セルフケア能力と健康教育</p> <p>健康問題解決のための看護の役割と援助</p>	
6	総合保健医療と継続看護	<p>継続看護とは</p> <p>継続看護の重要性</p> <p>総合保健医療(包括医療)と総合看護と継続看護</p> <p>プライマリーヘルスケアと継続看護、地域看護と継続看護</p>	
7	継続看護の実践事例	<p>看護の実践の場における継続看護 ー実践事例をとおしてー</p>	
8	健康教育とセルフケア能力の育成	<p>継続看護における指導の意義、退院指導・訪問指導</p> <p>健康教育とセルフケア能力の育成</p> <p>継続看護における看護の役割とこれからの看護</p>	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座 基礎看護学 3 臨床看護学総論 医学書院		
授業の形式、視聴覚教材の活用	OHP・プリント		
成績評価の方法	定期試験及び課題レポート、平常考査で総合的に評価する		
メッセージ			

授 業 科 目 名	臨床看護総論 ② －経過別看護－ －主要症状別看護－	担 当 教 官	梅 林 奎 子
対 象 学 生	1 学年	学期及び曜日・時限	前後期・木曜 II・III限
単 位	1 単位	必 修	教室名
学習のねらい	健康障害の各経過の特徴と患者・家族のニーズと援助について学ぶ。 各主要症状と原因、観察の要点について理解する。 主要症状に伴う看護上の問題と看護について学ぶ		
回	講 義 題 目	内 容	
1	経過別の特徴と看護	急性期、慢性期、回復期、終末期とは リハビリテーションとは 急性期における患者・家族の看護上の問題と援助の基本 慢性期における患者・家族の看護上の問題と援助の基本	
2		回復期における患者・家族の看護上の問題と援助の基本 リハビリテーションと看護 終末期における患者・家族の看護上の問題と援助の基本	
3	呼吸障害と看護	呼吸障害とは、呼吸障害の原因、症状(呼吸困難、異常呼吸、咳嗽・喀痰)観察の要点 看護上の問題と援助	
4	循環障害と看護	循環障害とは、循環障害の原因、症状(不整脈、浮腫、動悸)と観察の要点、 看護上の問題と援助	
5	消化器・排泄障害と看護	消化器障害とは、消化器障害の原因、症状(嘔気・嘔吐、下痢・便秘、吐血・下血)、観察の要点、排泄障害(尿の形成・排出障害、尿量の異常)とは、失禁とは	
6		看護上の問題と援助	
7	意識障害と看護	意識障害とは、意識障害の原因、意識障害のレベルの判定、観察の要点 看護上の問題と援助	
8	疼痛・発熱時の看護	疼痛(胸痛、腹痛、関連痛等)とは、痛みのスケール、観察の要点 看護上の問題と援助 発熱とは、観察の要点 看護上の問題と援助	
	浮腫のある患者の看護	浮腫とは、観察の要点 看護上の問題と援助	
テキスト、教材、参考書		系統看護学講座 基礎看護学3 臨床看護総論 医学書院	
授業の形式、視聴覚教材の活用			
成績評価の方法		筆記試験、レポート	
メッセージ		専門用語を正しく憶えましょう	

回	講義題目	内 容
	◎治療・処置を受ける患者の看護	
	◎医療用機器の原理と実際	
9	安静療法	「コンプライアンス」とは 安静とは、安静の効果・弊害とその看護
10	食事療法	食事療法とは、病院の食事、食事療法を必要とする患者の特徴、 看護;アセスメントのポイント、自己管理にむけての援助のポイント
	薬物療法	薬物療法とは、その意識と目的、専門職者の役割、薬物に影響を与える因子、 患者のコンプライアンスを高めるための援助
11	輸液療法	輸液療法とは、その目的 看護;アセスメントのポイント、施行時の援助のポイント
12	手術療法	手術療法とは、術前の患者ケアのポイント、術中の看護者の役割、術後の患者 ケアのポイント
	集中治療	集中治療とは、ICUの環境、患者の特徴、援助のポイントと看護者の役割
13	救急法	救急医療・救急法とは、救急状況にある患者の把握、二次救命処置 A~I、 看護者の役割
	創傷処置	創傷とは、創傷の治り方、ドレッシング法の種類、看護 褥創とは、発生要因と好発部位、褥創の分類とその程度にあわせた処置の 方法
	人工臓器	人工臓器とは、その種類、人工臓器をつけている患者の問題点とその看護
14	医療用機器	ME 機器とは、基礎知識、取り扱い上の注意点
15		ME 機器使用時の看護、代表的な機器の原理と構造

授業科目名	在宅看護論の基礎	担当教官	矢島まさえ
対象学生	1学年	学期及び曜日・時限	前期・月曜 II限 後期・火曜 II限
単位	2単位	必修	教室名
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・看護の中での在宅看護の位置づけを理解する。 ・在宅看護の歴史を理解する。 ・在宅看護が求められる社会的背景を理解する。 ・在宅看護の目的と役割を理解する。 ・在宅看護に対する個人及び社会の様々な要請を学ぶことにより、在宅看護のあり方についての問題意識を持つ。 		
回	講義題目	内 容	
1	導入	本科目の概要、達成目標、授業の進め方、評価、参考書などについて説明する	
2	地域看護と在宅看護	看護の中での在宅看護の位置づけを明確にする	
3	在宅ケアの在宅看護	在宅ケアの中での在宅看護の役割を明確にする	
4	在宅看護の歴史 1 欧米	欧米における在宅療養者に対する看護活動の歴史を概観する	
5	在宅看護の歴史 2 日本	日本における在宅療養者に対する看護活動の歴史を概観する	
6	在宅看護に関わる現状 1 高齢化現象	我が国の急速な高齢化社会の到来について、人口の推移の面から概説する	
7	在宅看護に関わる現状 2 高齢化現象	我が国の急速な高齢化社会の到来について、疾病構造及び医療経済の面から概説する	
8	在宅看護に関わる現状 3 家族構成及び扶養意識	我が国の家族構成の変化、扶養意識の変化、女性の社会進出と就労意識の変化について解説する	
9	在宅看護に関わる現状 4 高齢者保健・医療・福祉施策の概要	我が国の高齢者保健・医療・福祉施策の歴史的推移と各期の課題について解説する	
10	在宅看護に関わる現状 5 高齢者保健・医療・福祉施策の概要	我が国の高齢者保健・医療・福祉施策の現状と今後の展望について解説する	
11	在宅看護に関わる現状 6 高齢者保健・医療・福祉施策の概要	同上	
テキスト、教材、参考書	在宅看護論: 杉本正子、眞船拓子 広川書店		
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義、演習、グループワーク		
成績評価の方法	筆記試験		
メッセージ	在宅療養者を取り巻く環境と、在宅看護活動を概観します。積極的な学習を期待します		

回	講義題目	内 容
12	在宅看護に関わる現状 7 要介護老人と家族介護の実体	我が国の要介護老人と家族介護の実体について概説する
13	在宅看護を提供する場 1 行政・医療機関が行う訪問看護	行政及び医療機関が行う訪問看護活動の法的根拠と特徴について解説する
14	在宅看護を提供する場 2 訪問看護ステーション・民間が行う訪問看護	老人訪問看護ステーション、訪問看護ステーション及び民間サービス等が行う訪問看護活動の法的根拠と特徴について解説する
15	在宅における看護の持続性	地域における看護の持続性について対象のライフサイクル、疾病の自然史、看護提供者側の視点から解説する。また、在宅療養における外来看護の役割について解説する
16	在宅における看護の持続性	同上
17	在宅看護と外来看護	外来看護の機能と役割を在宅療養を支える立場から考える
18	在宅療養を可能にする条件	在宅療養を可能にする当事者や環境面の条件整備について解説する
19	施設看護と在宅看護	在宅看護の特徴を施設看護との比較により捉える
20	施設看護と在宅看護	同上
21	在宅看護の基本	在宅看護の機能、対象について解説する
22	在宅看護の基本	在宅看護の展開と評価について初回訪問を中心に概説する
23	在宅看護開始までの流れ	入院患者を例に、退院準備から在宅看護を開始するまでの患者・介護者への対応、関係者間の調整、諸手続き等の流れと看護上のポイントについて概説する
24	在宅療養者の権利保障 ノーマライゼーションの実現	障害者のノーマライゼーションについて、身近な環境を題材に考える
25	在宅療養者の権利保障 ノーマライゼーションの実現	同上
26	在宅療養者の権利保障 ノーマライゼーションの実現	同上
27	在宅療養者の権利保障 プライバシー保護、専門職としての責任	在宅看護における秘密保持、及び、在宅療養者の権利を擁護するための専門職としての責任について述べる
28	予備日	

授業科目名	在宅看護活動論Ⅰ	担当教官	矢島まさえ
対象学生	2学年	学期及び曜日・時限	前期・月曜 Ⅲ・Ⅳ限 後期・金曜 Ⅲ・Ⅳ限
単位	2単位	必修	教室名
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅看護を展開して行く上で必要な知識を習得する ・家族の実態と家族支援の方法を理解する ・在宅ケアにおける他機関・他職種との連携の具体的方法を理解する ・在宅における看護過程を展開する 		
回	講義題目	内 容	
1	在宅療養者と家族 1 家族の機能と変遷	家族の形態と機能の歴史の変遷について解説する	
2	在宅療養者と家族 2 現代日本の家族	現代日本の家族の問題と今後の予測について、諸外国との対比を踏まえて考察する	
3	在宅療養者と家族 3 家族をとらえる視点	在宅看護の対象となる家族を把握、理解すること、彼らのこれまでの生活、自立、QOLを尊重する視点について解説する	
4	在宅療養者と家族 4 介護の実態と家族支援	家族による介護現状、介護者と他の家族の協力や機能分担、社会サービスの導入に係る問題を紹介し、家族支援の方法について解説する	
5	在宅療養者と家族 5 介護の実態と家族支援	同上	
6	在宅療養者と家族 6 虐待の実態と家族支援	在宅療養者への虐待の実態を紹介し、被虐待者及び虐待者への支援について解説する	
7	在宅療養者と家族 7 虐待の実態と家族支援	同上	
8	在宅看護に関する経済的側面	在宅療養における診療報酬の体系と特徴、医療費以外の経済負担の実態、介護保険導入による経済的影響の予測について解説する	
9	在宅看護に関わる法規	保健婦助産婦看護婦法、医療法、老人保健法、地域保健法、精神保健福祉法等在宅看護の業務内容に関わる法規について解説する	
10	在宅ケアに関わる法規	在宅ケアに関わる保健・医療・福祉関係各機関の法的・社会的位置づけ、機能、連携の方向性について解説する	
テキスト、教材、参考書	テキスト 在宅看護論：杉本正子、眞船拓子 廣川書店 参考書 看護六法		
授業の形式、視聴覚教材の活用			
成績評価の方法	筆記試験		
メッセージ	「在宅看護論の基礎」を発展させ、在宅療養者をめぐる家族や社会の構造を理解するとともに、在宅看護活動の基本的な展開方法を学びます。学生の積極的な学習を期待します		

回	講義題目	内 容
11	在宅ケアに関わる職種	在宅ケアに関わる保健・医療・福祉関係各職種の法的、社会的位置づけ、機能、連携の方向性について解説する
12	在宅ケアシステム	在宅ケアに関わる社会資源とシステムについて紹介し、また、今後のシステム構築・充実に向けた様々な地域の動きを紹介する
13	在宅看護の場の構造	在宅療養の可否を決定する在宅療養者の生活の構造、障害者の程度による必要介護量と家族の介護力の関係性について解説する
14	在宅看護の場の構造	在宅療養の可否を決定する在宅療養者の生活の構造、障害者の程度による必要介護量と家族の介護力の関係性について解説する
15	訪問看護過程の展開 1 在宅看護過程に関わる状況	在宅看護における看護過程に関わる状況、家族単位のアセスメント、在宅ケアプランの中での看護計画の位置づけについて解説する
16	訪問看護過程の展開 2 アセスメント	在宅看護において収集すべき基本的な情報の項目、内容及び分析・評価について解説する
17	訪問看護過程の展開 3 アセスメント	事例を用いて、アセスメントの演習を行う
18	看護計画の立案 4 アセスメント	同上
19	看護計画の立案 4 アセスメント	同上
20	訪問看護過程の展開 5 看護計画の立案、実施	看護計画を立案し、看護の展開に結びつける方法について解説する
21	訪問看護過程の展開 6 看護計画の立案、実施	同上
22	訪問看護過程の展開 6 看護計画の立案、実施	同上
23	介護保険法と今後の在宅看護	介護保健法が導入された背景と、法の概要について解説する
24	介護保健法と今後の在宅看護	介護保険法体制下における在宅療養の実状と、在宅看護の役割について考える
25	在宅ケアチーム 1	在宅ケアチームによる支援の実際、ケアチーム会議の運営、在宅ケアチームにおける看護職の役割について解説する
26	在宅ケアチーム 2	同上
27	ケアマネージメント 1	ケアマネージャーの法的、社会的位置づけ、機能、在宅ケアチームの中での役割について解説する
28	ケアマネージメント 2	ケアマネージメントの展開過程について解説する

授業科目名	在宅看護活動論Ⅱ	担当教官	矢島まさえ
対象学生	2学年	学期及び曜日・時限	前期・金曜Ⅳ限 後期・月曜Ⅱ限
単位	2単位	必修	教室名
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> 在宅看護に必要な基本的技術を習得し、状況に応じて看護技術を工夫、実践できる能力を身につける 在宅看護の現場で行われる頻度の高い看護技術について、演習により技術を習得するとともに要点を理解し、現場の実態に即した応用能力を身につける 		
回	講義題目	内 容	
1	訪問看護の準備	訪問看護に出るときの必要物品、服装、初回訪問時に利用者に伝えること等について学ぶ	
2	バイタルサインチェックと病状観察	バイタルサインチェック、病状観察その他の情報収集について解説と演習を行う	
3	バイタルサインチェックと病状観察	同上	
4	在宅看護における面接と相談 1	在宅看護で行われる面接・相談の場面について、その目的、特徴、留意点を学び、面接場面の演習を行う	
5	在宅看護における面接と相談 2	同上	
6	在宅看護における面接と相談 3	同上	
7	住生活の援助	在宅療養者の希望、生活スタイルを尊重し、家庭の資源等を活用しながら安全、快適、清潔、介護の効率などの条件を満たす環境整備について解説し、演習を行う。また、在宅医療で使用頻度の高い介護機器を紹介する	
8	衣生活の援助	療養者の身体状況、生活スタイルに応じた衣類、履き物、寝具等の機能、素材を紹介し、衣類、寝具交換の演習を行う	
9	清潔の援助 1	在宅で行う清拭、おむつ交換、陰部洗浄、足浴、手浴、入浴介助、洗髪、整髪、ひげ剃り、爪切り、口腔の清潔の留意点と家族へのポイントを解説し、演習を行う	
10	清潔の援助 2	同上	
11	清潔の援助 3	同上	
テキスト、教材、参考書	在宅看護論: 杉本正子 眞船拓子 廣川書店		
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義 演習		
成績評価の方法	レポート		
メッセージ	在宅看護を実際に展開するための基礎的な技術を学びます。学生の積極的な参加を期待します		

回	講義題目	内容
12	食生活の援助 1	在宅療養者の全身状態、咀嚼・嚥下機能、手指の機能などに応じた食品の形状、食事の形態と、必要な器具や食事環境の整備について解説する
13	食生活の援助 2	障害者が調理する場合の食品の入手、調理方法、調理器具、調理場の環境等の工夫について学ぶ
14	排泄の援助	在宅療養者の排泄に関わる実態と、観察、管理、援助の要点を解説する
15	服薬管理、受診の援助	服薬管理の技術、薬効と副作用の観察、家族への指導について解説する。また、在宅療養における受診とその援助について解説する
16	在宅療養者とリハビリテーション	在宅療養者のリハビリテーションの特徴と援助について解説する
17	特殊な技術を使う在宅看護 1	在宅酸素療法、CAPD 法、排尿障害、ストーマケア、経管栄養、中心静脈栄養、吸引・気管切開口のケア等について在宅看護における特徴と要点を解説する
18	特殊な技術を使う在宅看護 2	同上
19	高齢者の看護	在宅における高齢者の看護の特徴と留意点について解説する
20	難病患者の看護 1	主な難病の疾患の進行・転帰、症状、治療、看護について解説する
21	難病患者の看護 2	神経難病患者の日常生活と看護について解説する
22	難病患者の看護 3	膠原病系疾患、その他の難病患者の日常生活と看護について解説する
23	身体障害者の看護	身体障害者の日常生活と看護について解説する
24	感染症の看護 1	結核、肺炎、MRSA、尿路感染、出血性大腸炎、エイズ、B 型肝炎など在宅看護で関わる感染症について、観察・看護の要点、患者及び医療従事者の感染予防の方法を学ぶ
25	感染症の看護 2	同上
26	急変時の看護	急変時の看護、連絡調整、家族支援について解説する
27	終末期の看護 1	在宅ホスピスと終末期の看護・家族支援について解説する
28	終末期の看護 2	同上

授業科目名	在宅看護特講	担当教官	矢島まさえ
対象学生	2学年	学期及び曜日・時限	後期・月曜 IV限
単 位	1単位	選 択	教室名
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会において住民の健康がどのように守られているかを学び、総合保健医療における看護の役割を理解する ・地域看護の対象と活動展開方法を理解する ・地域看護で用いられる個別指導、集団指導の技術を学ぶ 		
回	講義題目	内 容	
1	地域看護の概念・歴史的あゆみ	地域看護の概念、目的、対象、活動の場、活動の手段について概説する。また、諸外国での地域看護活動の起源、日本における地域看護活動の成り立ちと発展、法的位置づけ・教育制度の変遷について解説する	
2	地域看護活動の展開	地域看護活動における情報収集と対象集団の健康状態の把握、アセスメント、目標設定、活動計画、実施、評価、フィードバックの一連の活動過程を解説する	
3	職域別地域看護活動 1	地域保健法をふまえ、保健所、市町村における保健活動の基本的な考え方と活動の実際について解説する	
4	職域別地域看護活動 2	病院、産業、学校における保健活動の基本的な考え方と活動の実際について解説する	
5	活動の実際 個別指導	保健指導の具体的手法のうち、個別指導の家庭訪問、健康相談、電話相談の特徴と基本的技術について解説する	
6	活動の実態 集団指導	保健指導の具体的手法のうち、集団指導の健康教育、地区組織活動の特徴と基本的技術について解説する	
7	現状と地域看護活動の課題と今後の展望	少子化、高齢化等の社会の変化に対応する地域看護活動の課題と今後の展望について考える	
テキスト、教材、参考書		地域看護学概論：飯田澄美子、金川克子 メヂカルフレンド社	
授業の形式、視聴覚教材の活用		講義	
成績評価の方法		筆記試験	
メッセージ		看護職が地域で広く活動している姿を紹介します。みなさんの視野も一段と広がることと思います。	

授業科目名	成人看護学の基礎	担当教官	新藤悦子
対象学生	1学年	学期及び曜日・時限	前期・金曜 II限
単位	2単位	必修	教室名
学習のねらい	成人期にある人の身体機能の特性や社会、精神生活の特徴を理解し、生活の視点から成人期にある人の健康問題を援助する基礎となる知識と技術を学ぶ。		
回	講義題目	内 容	
1	成人看護の意義	成人看護の目的・位置づけを知り、その意義を学ぶ。 成人に対する各自のイメージを出し合い、成人の概念を学ぶ動機とする	
2	成人期とは	ライフサイクルにおける成人期、成長・発達概念と成人期について学習する。 各自の成人のイメージをまとめ成人の特性を考える	
3	成人期と発達理論	成人期にある人を理解するための発達理論を学ぶ	
4 ～ 7	成人各期の特徴	〈グループワーク〉青年期、壮年期、向老期の身体的、心理的、社会的特徴についていくつかの視点から調べ、また実際の例を収集しまとめる	
8	成人期の健康問題	人口の動向、疾病状況、死亡の動向など健康指標にみる成人の特徴および生活のなかみみる成人の健康問題を学習する	
9	健康を保つメカニズム(1)	健康に対する信念、価値観、心理社会文化的要因について学ぶ。特に健康に対する信念、価値観を反映する保健医療行動の理論について学習する	
10	健康を保つメカニズム(2)	成人期の発達の、状況的危機と対処機制について学習する	
11	健康障害をもつ成人の理解	成人期にある人が健康を障害されることによって受ける問題とその反応への影響要因について学び、健康を障害された成人期にある人を理解するための指針とする	
12	成人期の健康障害と回復過程	成人期にある人の健康増進、疾病予防、健康障害からの回復過程について学習する	
13	成人期の健康障害と回復過程と看護の役割機能	経過別の看護の役割機能について学習する。さらに看護婦と成人患者の援助関係についてその基本概念、要素を学ぶ。	
14	成人看護における教育的機能	成人看護学における教育的機能を理解し、その援助に必要な知識を学ぶ。	
15	まとめ		
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座「成人看護学 1」 その他講義中に提示する		
授業の形式、視聴覚教材の活用			
成績評価の方法	ペーパーテスト・レポート		
メッセージ	健康問題に主体的に取り組んで行く成人期にある人への援助を概説します。自己の成人観を確立しつつ、成人期にある人への看護の役割機能を学習します。		

授業科目名	急性期の成人看護	担当教官	矢嶋和江
対象学生	2学年	学期及び曜日・時限	前期・木曜 I・II限 後期・月曜 V限
単 位	3単位	必 修	教室名
学習のねらい	①急性期における対象の特性を理解し、時系列に変化する身体的状況をアセスメントし、適切な看護ケアが展開できる知識・技術を学ぶ。 ②外科的治療を受ける対象の生理的特徴を理解し、手術に備えての身体的準備、術後の苦痛や侵襲からの回避に向けた適切な看護ケアの方法を学ぶ ③リハビリテーション看護の目的を理解し、ADLの拡大に向けた援助の方法を理解する ④感染をうけた患者の基本的な援助技術とその防止策について理解する		
回	講義題目	内 容	
1	外科看護の基本	①外科看護の対象と目的 ②手術を受ける対象の理解	
2	手術前の患者管理	①手術を受ける対象の心理的特徴を理解し、精神的ケアの技術について学ぶ	
3		②入院から手術に至までの看護過程を学び、術前管理の原理原則を理解する *GW: インフォームドコンセンスについて	
4		①麻酔の種類とその特徴	
5	麻酔と看護	②麻酔時の看護と注意すべき合併症について理解する (特に、小児、高齢者に於ける麻酔時の留意点)	
6	手術室看護	①手術室看護の目的と看護の役割	
7		手術患者の環境としての手術室の構造、安全を重視した設備、感染防止対策などについて理解し、手術室看護婦の役割について学ぶ	
8		②手術室における看護を中心に患者の不安への援助の必要性を理解し、安全に手術が終了するまでの手術看護の展開技術を学ぶ	
9	手術後の合併症と回復への援助	③回復室看護の目的と看護の役割	
10		手術直後の患者をアセスメントし、何をどう観察するのかを理解する	
11		①手術侵襲が生体に及ぼす影響、生体の機能、心肺機能及び他の臓器への影響について理解する	
16	消化器疾患の理解 (外部講師=6回)	消化器の機能及び疾患とその治療法について理解する	
17	消化器疾患患者の看護	②手術後看護の特徴	
18		③術後合併症とその看護	
20		④高齢者の特徴と術前術後の管理	
11	消化器疾患の理解 (外部講師=6回)	消化器の機能及び疾患とその治療法について理解する	
17	消化器疾患患者の看護	消化器疾患の外科的治療を受ける患者の術前術後、および回復期の看護援助について学ぶ ①胃切除患者の食事療法への援助 ②腸切除患者の看護	
テキスト、教材、参考書	メジカルフレンド「臨床外科看護学:1・2」、「成人看護学:2・3・4・6・8・10」、プリント等		
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義及び演習、VTRの活用、器具などの実物の供覧やスライドの使用 授業ではできる限り質問し、学生の理解度を確かめながら進める。		
成績評価の方法	試験・レポート・出席状況・授業態度など総合的に判断する。		
メッセージ	重要な単元なので前回の復習と質問を繰り返しながら進めるので、復習は必須条件。解剖生理学や病態学等と関連づけて講義するので理解しておく。		

回	講義題目	内 容
21	腎臓・泌尿器疾患患者の看護	①腎・泌尿器疾患の治療・検査等について概観し、外科的療法をうける患者の看護について学ぶ 尿路変更術後の看護についてアセスメントし、看護援助を学ぶ
22	ストーマリハビリテーション	排泄機能を装具により行わなければならない患者の援助について学ぶ
23	看護	尿路変更術後、人工肛門造設術後のリハビリテーション
24	心電図について	①心電図検査方法について学ぶ ②波形各部の名称と異常波形について理解する（演習）
25	循環器疾患の理解	①虚血性心疾患についての病態及び治療・検査法について学ぶ
～	(外部講師=4回)	①急性心筋梗塞患者の生命に対する不安や恐怖に対する看護介入の方法について学び、また、リハビリ期における精神的・社会的な支援の必要性について理解する
28		
29	循環器疾患患者の看護	②心臓手術を受ける患者の術前術後に於ける看護について学ぶ
30		
	<後期>	
1	呼吸器疾患患者の看護	①呼吸器疾患の外科的治療を受ける患者の看護について学ぶ
2		肺切除後看護及び合併症の防止について
3	人工呼吸器装着患者の看護	②人工呼吸器を必要とする患者の呼吸管理の目的、人工呼吸器装着中の患者の看護について理解する
4	乳癌患者の看護	①乳癌の手術を含む治療法について最新情報を取り入れて概観する
5	* 事例検討	②乳房切除に対するボディイメージの喪失とその受容過程への援助
6	内分泌疾患患者の看護	①甲状腺の術前術後のアセスメントと看護援助について学ぶ
7	脳神経外科疾患患者の看護	①脳外科対象疾患の外科的治療を受ける患者の看護について学ぶ
8	運動器疾患の理解	①整形外科看護の特殊性や患者の心理的社会的、身体的バリアー環境に於ける基本的看護について理解する。また整形外科的治療法や検査法などについて概説する
～		骨折、椎間板ヘルニア、変形性関節症、骨腫瘍、神経障害など
10		固定法、牽引法、装具療法、関節造影、脊髄造影
11	人工関節置換術を受ける患者の看護	②外科的治療を受ける患者の看護と発生しやすい合併症について理解する。特に人工関節置換術及び術後のリハビリテーション
12	脊髄損傷患者の看護	③高位レベルでの損傷患者、特に若い年齢層の障害に対する受容過程への看護援助、家族を含めた社会の受け入れ体制などを理解する。四肢麻痺患者のADL訓練の基本と廃用性症候の予防などについて学ぶ
13	四肢切断術を受ける患者の看護	④骨腫瘍にて切除術をうけた患者の患者の心理的、身体的リハビリテーション過程をアセスメントし、具体的看護技術を学ぶ
14	院内感染の予防と看護	①医療環境における感染管理と看護の果たす役割
15		②感染症の今日の問題について概説し、感染症予防に伴う法的問題、患者隔離等に関する看護援助について理解する
		* 施設見学

授 業 科 目 名	慢性期・終末期の成人看護	担 当 教 官	新 藤 悦 子
対 象 学 生	2 学年	学 期 及 び 曜 日 ・ 時 限	前期・水曜 II 限 後期・火曜 III・IV 限 金曜 III・IV 限
単 位	3 単位	必 修	教室名
学習のねらい	慢性疾患及びがんがその人生に及ぼす影響を全人的にとらえ、自己の病気を主体的に管理し、生活様式の変更、維持するために必要な専門的支援の知識技術を学ぶ。予後不良の疾患により限られた時間を生きる人及び家族のニーズを学び、最期までその人らしく生きるための援助を学ぶ。		
回	講 義 題 目	内 容	
1	慢性期にある人の特徴	慢性期とは、慢性疾患及び慢性期の健康障害の特徴を学び、慢性期にある人の心身、生活、家族への影響を理解する。	
2	慢性期にある人の看護の特徴	セルフケアの概念及びセルフケアに影響する要因を学び、セルフケア能力のアセスメント、病気受容過程への援助、症状コントロール、患者教育など看護の特徴を学ぶ	
	各機能障害をもつ患者の看護	成人期には特徴的な慢性疾患を取り上げ、看護を行うにあたって必要な既習の知識を使いながら、看護の方法論を学ぶ	
3 ～ 6	1) 肝機能を障害された患者の看護	肝機能を障害されたことによる心身の変化及び生活への影響を把握する方法を学ぶ。さらに看護目標、看護援助の実際について学ぶ。	
7 ～ 10	2) 腎機能を障害された患者の看護	腎機能を障害されたことによる心身の変化及び生活への影響を把握する方法を学ぶ。さらに看護目標、看護援助の実際について学ぶ。 透析療法を受けながら生活する人の看護も学ぶ	
11 ～ 14	3) 造血機能を障害された患者の看護	造血機能を障害されたことによる心身の変化及び生活への影響を把握する方法を学ぶ。さらに看護目標、看護援助の実際について学ぶ。	
15 ～ 18	4) 呼吸機能を障害された患者の看護	呼吸機能を障害され酸素摂取予備力が低下したことによって心身の変化及び生活への影響を把握する方法を学ぶ。さらに看護目標、看護援助の実際について学ぶ。	
19 ～ 22	5) 循環機能を障害された患者の看護	心機能が低下したことによって心身の変化及び生活への影響を把握する方法を学ぶ。さらに看護目標、看護援助の実際について学ぶ。	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座「成人看護学1、別巻10ターミナルケア」 新版看護学全書「成人看護学 2、3、4、6、7」		
授業の形式、視聴覚教材の活用			
成績評価の方法	ペーパーテスト・レポート		
メッセージ	慢性疾患と共に生きていくために、自分の状況を受け入れ、生活習慣や行動の変化を迫られる人を支援するために必要な援助の方法を学習します。既習の知識を復習し、講義に臨んで下さい。またがん、予後不良という病気が人々に与える影響について文献学習や討議を交えて学習して行きたいと思います。		

回	講義題目	内容
23 ～ 25	6) 糖代謝機能を障害された患者の看護	糖尿病によって心身の変化及び生活への影響を把握する方法を学ぶ。さらに看護目標、看護援助の実際について学ぶ。
26 ～ 29	7) 免疫機能を障害された患者の看護	自己免疫機能障害特に膠原病、慢性関節リウマチによって心身の変化及び生活への影響を学び、看護援助の実際について学ぶ
30 ～ 31	がん患者の看護 1) がんの特性とがん患者の理解	成人期のがん疾患の動向、予防・発見システム、がん疾患が及ぼす身体的、心理的、社会的影響と看護の特徴を学ぶ
32 ～ 34	2) がん治療を受ける患者がもつ問題と看護	化学療法、放射線療法などがん治療を受ける患者への看護を学ぶ
35	3) がんと共に生きる	「真実を知る」という問題、がんと共に生きて行くためのプログラム、家族がもつ問題と支援、患者と家族を支えるソーシャルサポートについて学ぶ
36	終末期にある人の看護 1) 成人期の終末期	病によって終末期と診断された成人期の患者の理解を深めるためにまず自分の人生の終わりについて、生や死について自分の反応を表出してみる。現代の終末期医療の現状と課題、終末期と診断することの意味、終末期医療における看護と理念を概観する
37 ～ 38	2) 終末期にある人がもつ問題と看護	身体的苦痛とその援助、精神・社会的苦痛と援助について学ぶ 日常生活行動への援助について学ぶ
39	3) 終末期における家族への援助	終末期にある患者の家族のニーズ、死別の受容のプロセスなどを学び、家族への援助について学ぶ
40 41	4) 事例をもとに終末期の看護を考える	いくつかの事例をもとに終末期の患者と家族の理解を深め終末期の看護について考える機会とする
42 43	慢性期看護に必要な技術演習	
45	まとめ	

授業科目名	成人看護学特講	担当教官	矢嶋和江
対象学生	2学年	学期及び曜日・時限	後期・月曜 III限
単 位	1単位	選 択	教室名
学習のねらい	成人期の健康障害をもつ対象、特に急性期の事例を取り上げ、適切な看護介入に向けた看護過程の展開を学ぶ 臨地実習に向けて、問題解決能力を更に高める		
回	講義題目	内 容	
1	オリエンテーション	1. 講義・演習の進め方 2. グループニング・編成 3. 事例の紹介	
2 ～ 5	事例検討	1. 胃がんの手術を受ける対象の心理を考察し、様々な心理的葛藤への看護介入に向けた看護過程を学習する 2. 排泄機能の変更術を受ける患者の受容に至る過程の事例について看護過程を学習する 3. 危機的状況におかれた患者の身体的・心理的葛藤状況への看護援助の過程を学習する ☆上記事例は変更することもあり得る 各事例は、アセスメントし、看護上の問題を抽出してケアプランを立案する ☆事例によっては役割モデルによるロールプレイをおこない、患者や家族の心理の理解に努める ☆グループワークを主体に学習を進める	
6 7	まとめと評価	全体発表(各グループごと)	
テキスト、教材、参考書	プリント中心、参考資料はその都度提示する		
授業の形式、視聴覚教材の活用	グループワーク中心の演習		
成績評価の方法	グループワークやロールプレイ、講義の出席状況などで総合評価する		
メッセージ	グループワークや発表では活発な意見交換をしてほしい		

授 業 科 目 名	老年看護学の基礎	担 当 教 官	渡 会 丹 和 子
対 象 学 生	1 学年	学期及び曜日・時限	前期・水曜 IV限 後期・火曜 III限
単 位	2 単位	必 修	教室名
学習のねらい	1. ①高齢者の生きてきた時代背景②人口学的指標③健康の指標④疾病統計⑤痴呆・寝たきりの統計⑥事故の統計を通して高齢者の全体像を理解する。 2. 老年看護に関わる統計資料の見方を理解する。 3. 課題に対するグループワークのすすめ方、まとめ方、メンバーシップ、発表の技術を理解する。 4. 加齢と老化の過程、それに伴う変化を理解する。		
回	講 義 題 目	内 容	
1	前期 老年看護学の導入	老年看護の学習のねらい、授業のすすめ方について説明する。	
2	高齢者の生きてきた時代についてのグループワークオリエンテーション	目的: 老年期の人が誕生から現在まで生きてきた歴史をふりかえり生活・信条等に影響をあたえた事件、社会現象、および医療・看護の状況を理解する。 方法: 高齢者の生きてきた時代を①-④に分類し、グループ毎に文献を読み、ディスカッションによりまとめる。 ①0-15 歳までのグループ ②16-35 歳までのグループ ③36-60 歳までのグループ ④61 歳-現在までのグループ まとめ: グループワークの成果は媒体を作成し、グループ毎に発表する。	
3	グループディスカッションのあり方	VTR「12 人の怒れる男」を鑑賞し、グループワークへの参加方法について学ぶ。	
4	グループワーク	グループのリーダーを決定し、学生が主体的にすすめてまとめる。	
5			
6			
7	グループの発表	グループ全員で 10 分以内に媒体を活用し、学習の成果を効果的に発表する技術を学ぶ。	
8	グループ発表のまとめ		
9	人口学的指標からの高齢者に理解 健康指標からの高齢者の理解	1. 統計資料の読み方を学ぶ。 2. 統計資料をもとに、人口の推移、寿命の変遷を学ぶ。 3. 統計資料をもとに疾病構造、有病率、受療行動、死亡率等を学ぶ。	
10	高齢者の痴呆統計	高齢者に多い疾患 3 大疾病、骨粗鬆症、肺炎、糖尿病、前立腺肥大症の特徴を学ぶ。	
テキスト、教材、参考書		国民衛生の動向	
授業の形式、視聴覚教材の活用		グループワーク VTR使用	
成績評価の方法		グループワークの参加度、筆記試験	
メッセージ		老年看護学を学ぶ導入として、高齢者はどのような時代を生きて現在があるのかグループワークをとおして学びましょう。 仲間とともに学ぶということは、相手に依存することではなく、ひとりで学ぶ限界を越えて広がりをもって学習するということです。	

回	講義題目	内 容
11 12	痴呆・ねたきりの統計	痴呆とはどのような状態か。VTR「恍惚の人」を鑑賞し学ぶ。
13	高齢者の自殺・事故 後期	年齢別自殺率、自殺の理由、高齢者に多い事故について統計資料から学ぶ。
14	加齢と老化の過程	老化の定義、老化の特徴、高齢者の適応パターン、高齢者の成熟の意味について学ぶ。
15	加齢に伴う変化	老化の特徴(回復力・予備力・防衛力・適応力の低下)について例をあげて説明する。
16 17	加齢に伴う身体機能の変化	生理学で学習した内容をフィードバックしながら、加齢に伴う全身の組織、器官の機能の変化について学ぶ。
18 19 20	精神・心理面の変化	高齢者の精神・心理面の変化(知的能力、情緒的側面、人格)について学ぶ。 VTR「黄昏」を鑑賞し、高齢者の精神・心理面の変化について学ぶ。
21	社会・経済面の変化	高齢者の社会的役割の変化と喪失、家庭内の役割の変化と喪失、経済力の変化について学ぶ。
22	高齢者にとっての健康	1. 基礎看護学で学んで健康の概念をフィードバックしながら高齢者にとっての健康のとらえ方を学ぶ。 2. 高齢者の生きがい、満足度とはどのようなものか資料をもとに学ぶ。
23	老年看護活動の特性	老年看護は高齢者に対してどのような役割を担う必要があるのか、場面を設定しながら学ぶ。
	介護保険とは	H12年4月から導入される国の施策の概要を学ぶ。
24	老年看護における倫理的課題	倫理的問題状況を設定し、その中から何が倫理的配慮に欠けているかを学ぶ。特に自立と自己決定、高齢者の差別と虐待を考える機会にする。
25	科目終了試験	
26	後期まとめ	

授 業 科 目 名	老年の健康障害と看護Ⅰ	担 当 教 官	渡 会 丹 和 子
対 象 学 生	2 学年	学期及び曜日・時限	前期・月曜 I・II 限
単 位	2 単位	必 修	教室名
学習のねらい	1. 高齢者の健康障害の特徴および日常生活の中で起こりやすい健康問題とその援助について理解する。 2. 高齢者の入所する保健・医療・福祉・介護施設における制度と看護の役割について理解する。		
回	講 義 題 目	内 容	
1 2	前期 高齢者の健康障害の特徴	高齢者に多い障害、障害の現れ方の特徴、健康障害の経過と合併症の問題、障害の予後に関連する問題について学ぶ。	
3 4 5	診断・治療に伴う高齢者の看護	検査、薬物・食事療法時の看護のポイント(検体採取時の注意、観血的検査時の注意点、食事・薬物療法の目的・方法・観察事項など)各々代表例を挙げて説明できる。	
6 7 8	外来通院、入院、退院における高齢者の援助	高齢者の健康指導の特徴、外来フォローアップ、介護に関わる問題について学ぶ。	
9	日常生活の中で起こりやすい健康問題とその援助		
10	1)いたみ	いたみの概念、高齢者のいたみの特徴、および術後痛、癌性疼痛、疼痛緩和の基礎について学ぶ。	
11	2)かゆみ	高齢者のかゆみの原因、観察の視点、緩和方法について学ぶ。	
12	3)不眠	不眠のメカニズム、高齢者の不眠の特徴、観察のポイント、具体的な援助方法について学ぶ。	
13	4)便秘	原因・誘因とその結果、高齢者・家族への指導について学ぶ。	
14	中間試験		
テキスト、教材、参考書	教科書:系統看護学講座 20 老年看護病態・疾患編 資料は授業の中で配布する。		
授業の形式、視聴覚教材の活用			
成績評価の方法	①筆記試験 ②出席		
メッセージ	学習しなければならない内容が一気に増えます。 自分なりの学習方法、覚え込む工夫を考えましょう。		

回	講義題目	内容
15	後期 5) 転倒	原因・誘因とその結果、高齢者・家族への指導について学ぶ。
16	6) 褥創予防とケア	発生機序、病型分類、合併症、治療、看護について学ぶ。
17	えん下障害	正常なえん下機構、えん下機能の診断・評価、食物摂取時の観察のポイントについて学ぶ。
18	廃用症候群	原因・誘因とその結果、状態悪化を早期発見するための観察のポイント、看護の役割について学ぶ。
19	ターミナル期にある高齢者の看護	高齢者の死のとらえ方、看とりに対する家族との合意の形成、死の徴候の観察・評価、苦痛緩和について学ぶ。
21	高齢者の入所する施設における看護	
22	1) 療養型症候群の特徴	各施設に関連する制度の概要、各施設間の相違 看護の役割について学ぶ。
23	2) 老人保健施設の特徴 3) 特別養護老人ホーム	
24	高齢者看護のマネジメント	
25	科目終了試験	退院計画、マネジメントの内容について学ぶ。
26	予備日	

授 業 科 目 名	老年の健康障害と看護Ⅱ	担 当 教 官	渡 会 丹 和 子
対 象 学 生	2 学年	学期及び曜日・時限	後期・月曜 I 限 後期・水曜 I 限
単 位	2 単位	必 修	教室名
学習のねらい	1. 老人が罹患しやすい疾病をとりあげ、病態生理、共通する看護を理解する。 2. 課題に対する自己学習のすすめ方、まとめ方、効果的な発表の技術を理解する。		
回	講 義 題 目	内 容	
1	前期 障害をもつ高齢者の看護	課題として取り上げた疾病について、以下の学習を行う。 ①提示されている疾病の病態生理、症状、検査、診断、治療、看護について自己学習しレポートする。 ②レポートは、指示された日の時間に、指示された学生がまとめて教務課に提出する。 ③指示された学生は、学生の前で口頭発表を行う。 ④発表中は適宜質問をなげかけ、追加する課題を提示する。	
2	脳血管障害患者の看護	2－自己学習	
3		3－発表	
4	肺炎患者の看護	4－自己学習	
5		5－発表	
6	肺結核患者の看護	6－自己学習	
7		7－発表	
8	消化性潰瘍患者の看護	8－自己学習	
9		9－発表	
10	白内障患者の看護	10－自己学習	
11		11－発表	
12	中間試験		
13	前期まとめ		
テキスト、教材、参考書	「老年看護の健康障害と看護Ⅰ」と同じ資料は授業中に配布する。		
授業の形式、視聴覚教材の活用	自己学習、発表		
成績評価の方法	①レポート内容の評価 ②筆記試験 ③出席		
メッセージ	看護を実践する基礎となる病態生理を徹底して自力でまとめましょう。 3年次の実習に役立つように学習することを期待します。		

回	講義題目	内 容
	後期	
14	骨粗鬆症患者の看護	14－自己学習
15		15－発表
16	高齢者の骨折患者の看護	16－自己学習
17		17－発表
18	前立肥大症患者の看護	18－自己学習
19		19－発表
20	疥癬のある患者の看護	疾病の特徴、隔離について看護の方法について学ぶ。
21	痴呆性老人の看護	痴呆の種類、評価方法、痴呆に伴う症状、介護上の問題等について学ぶ。
22		
23		
24	リハビリテーションに向けた看護	基本体位、良肢位、機能訓練を実施するための基礎的知識について学ぶ。
25	科目終了試験	
26	後期まとめ	

授業科目名	老年看護学特講	担当教官	渡会丹和子
対象学生	2学年	学期及び曜日・時限	後期・月曜 III限
単 位	1単位	選 択	教室名
学習のねらい	疾病をもつ高齢者の事例をもとに、ヘルスアセスメント、看護過程の展開を行う。 この学習を基礎に、3年後期の実習を効果的に実施できる力を育成する。		
回	講義題目	内 容	
1	事例提供 (重症でねたきりの高齢者のケース)	1. 事例の解説、データ解釈のために学習しておくことを説明する。 2. 事例のデータのアセスメントを、次回まで自己学習により終了して授業に参加する。	
2	データの解釈	1. データの解釈を質問する。	
3		2. データのアセスメントを質問する。	
4		3. アセスメントの方法を説明する。	
5			
6	まとめ	事例全体のまとめを行う。	
7		不足しているデータは何か質問しながら明らかにする。	
		課題: 事例の看護を必要とする問題をすべて列記する。 その問題には優先順位をつける。	
テキスト、教材、参考書	資料は授業中に配布する。		
授業の形式、視聴覚教材の活用			
成績評価の方法	1. 特に出席重視 2. 課題の提出(テーマは上記)		
メッセージ	基礎看護学実習Ⅱで学んだ看護過程を忘れないうちに、あるいは不明確なところを学内でじっくり学びましょう。 そのうえで、看護実践には、学習の積み重ね、多角的ものの見方の必要性を実感してください。		

授業科目名	小児看護学の基礎	担当教官	高田茂子
対象学生	1学年	学期及び曜日・時限	後期・月曜 III限
単 位	1単位	必 修	教室名
学習のねらい	小児各期(乳児・幼児・学童・思春期)の特徴を理解し、小児が健全に育成していくための環境と小児を保護する法律や保健対策について学ぶ。 そこから、小児看護の変遷を知り、小児看護の理念・目的を理解する。		
回	講義題目	内 容	
1	1. 小児とは	1)小児の特徴	
2	2. 小児の成長発達	1)成長発達の総論 (1)総論 (2)原則 (3)影響する因子 (4)成長発達の区分	
3		2)小児の成長発達 (1)形態的成長・体重・身長・頭部・胸部・その他	
4		(2)機能的発達・呼吸・循環・血液・体温・消化 ・水分と電解質・免疫	
4		(3)精神・運動機能の発達・新生児期・乳幼児期 ・学童期・青年期	
5	3. 小児各期の日常生活	1)乳幼児の養護と生活 (1)基本的な生活習慣と養護 (2)日光浴と空気浴	
6		2)学童生活 (1)学童の生活行動 (2)学童の健康問題	
7	4. 小児の発達と環境	1)発達に影響する影響	
8		2)小児と栄養 (1)小児栄養の特徴と重要性 (2)乳児の栄養	
9		(3)幼児の栄養 (4)学童の栄養	
10		3)小児と家族 (1)子どもの発達から見た家庭の意義 (2)母親との関係	
11		(3)父親との関係 (4)きょうだいとの関係	
12	5. 小児と保健	4)小児と社会 (1)小児観の変遷 (2)現代の子ども	
13		5)子どもにとっての遊び	
14	6. 小児看護の変遷	日本の場合	
15	7. 小児看護の理念・目的	1)小児看護の特徴 2)小児看護の目標 3)小児看護の役割 4)小児看護婦のあり方	
テキスト、教材、参考書		「小児看護学」 著者:吉武香代子、医学書院 参考書:その都度紹介する	
授業の形式、視聴覚教材の活用		講義 グループワーク ビデオ・OHP	
成績評価の方法		ペーパーテスト レポート	
メッセージ		子どもに興味をもってほしいです	

授 業 科 目 名	小児の健康障害と看護Ⅰ	担 当 教 官	高 田 茂 子
対 象 学 生	2 学年	学 期 及 び 曜 日 ・ 時 限	後 期 ・ 水 曜 Ⅱ ・ Ⅲ 限
単 位	1 単 位	必 修	教 室 名
学 習 の ね ら い	健康障害をもつ小児とその家族を理解し、小児看護の実際に必要な基礎知識である、小児の健康段階に応じた看護の方法を理解し、援助のための小児の特殊技術を理解し身につける		
回	講 義 題 目	内 容	
1	1. 健康障害された小児の看護	1)小児と病気 (1)小児の病気に対する反応 (2)病気が小児に及ぼす影響	
2		2)入院と小児 (1)入院を要する小児 (2)入院時に経験する変化、反応 (3)看護婦の役割	
3		3)入院中の小児の看護 (1)新生児の看護 (2)乳児の看護 (3)幼児の看護 (4)学童の看護 (5)中学生の看護	
4		4)病気を持つ小児の看護 (1)家族の反応 (2)母親の反応 (3)看護婦の役割	
5	2. 健康段階に応じた看護	1)急性期にある小児の看護 (1)小児の急性期症状の特徴 (2)看護	
6		2)回復期にある小児の看護 (1)小児の回復期症状の特徴 (2)看護	
7		3)慢性期にある小児の看護 (1)小児の慢性期症状の特徴 (2)長期入院時の小児看護 (3)外来での小児の看護	
8		4)終末期にある小児の看護 (1)終末期にみられる小児の症状 (2)終末期にある小児の心理的問題 (3)看護	
9			
10	3. 主要症状別看護	1)全身症状 ・発熱 ・泣き ・痛み	
11		2)呼吸器症状 ・呼吸困難 ・喘鳴 ・咳	
12		3)循環器症状 ・チアノーゼ ・頻脈 ・不整脈	
13		4)神経症状 ・意識不明 ・けいれん ・麻痺	
		5)消化器症状 ・嘔吐 ・下痢 ・便秘	
		6)排尿症状 ・乏尿 ・多尿	
		7)水分代謝の異常 ・脱水 ・浮腫	
		8)皮膚症状 ・発疹 ・かゆみ	
テキスト、教材、参考書	「小児看護学」 著者:吉武香代子 医学書院 「小児看護心理学」 著者:小嶋謙四郎 医学書院 参考書:その都度紹介する		
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義 学内実習 グループワーク ビデオ OHP		
成績評価の方法	ペーパーテスト レポート 他		
メッセージ	健康障害をもったこどもとその家族、特に母親の苦しみを理解でき、看護婦としてどうあったらいいか考えてみてください		

回	講義題目	内 容	
14	4. 小児看護技術	1)小児の日常生活の援助技術	
15		食事(乳児・幼児・学童)	
16		排泄(乳児・幼児)	
17		清潔(清拭・入浴・歯磨き)	
18		着脱	
19		睡眠	
20		環境	
21		2)共通技術	
22		(1)身体の測定 (2)バイタルサイン測定	
23		3)診療時の援助技術	
24		(1)環境整備 ・保育器の扱い ・新生児のベット、幼児のベットの扱い	
25		(2)点滴中の看護	
26		(3)吸引時の看護	
27		(4)抑制時の看護 ・チョッキ ・ひも	
28		(5)各処置時の固定 ・採血 ・腰椎穿刺等	
29		5. 治療・処置を必要とする小児の看護	1)薬物療法を受ける小児の看護 ・与薬量の決定 ・薬物の投与方法
30			2)食事療法を受ける小児の看護 ・食事療法とは ・栄養障害のある乳児 ・食事制限のある小児
31		3)安静療法を受ける小児の看護 ・安静とは ・安静を必要とする小児 ・看護	
32		4)放射線療法を受ける小児の看護 ・放射線療法とは ・看護	
33		5)手術を要する小児の看護 (1)小児外科看護の特徴	
34		(2)手術を受ける小児の看護	
35		6)牽引及びギブス包帯施行中の小児の看護	
36		7)救急処置 (1)一般的注意事項 (2)乳幼児の蘇生法	
37	6. 小児の継続看護	1)小児病棟での看護 (1)小児病棟管理 (2)入院、退院時の看護	
38		2)家庭療養	
39		3)外来における小児の看護	
40			

授 業 科 目 名	小児の健康障害と看護Ⅱ	担 当 教 官	高 田 茂 子
対 象 学 生	2 学年	学 期 及 び 曜 日 ・ 時 限	前 期 ・ 火 曜 IV 限
単 位	1 単 位	必 修	教 室 名
学 習 の ね ら い	小児に特有の疾患とその看護・治療方法を学習し、実際の看護に生かせるようにする		
回	講 義 題 目	内 容	
1	1. 小児の経過の特徴	1)急性期にある小児の特徴 2)回復期にある小児の特徴 3)リハビリテーションを必要とする小児の特徴 4)予後不良の小児の特徴	
2	2. 小児期にみられる主な健康障害	1)胎内での影響を受けた健康障害 (1)染色体異常 (2)新生児の適応障害 (3)低出生体重児	
3		2)呼吸器の障害がある小児 (1)肺炎	
4		3)循環器・血液系に障害がある小児 (1)先天性心疾患 (2)突然死	
4		4)消化器に障害のある小児	
6		5)腎・泌尿器系に障害のある小児 (1)腎炎 (2)ネフローゼ症候群 (3)紫斑病	
6	3. 小児期にみられる主な健康障害に対する看護	6)悪性新生物 (1)脳腫瘍 (2)神経芽細胞腫 (3)白血病	
7		7)免疫・アレルギー疾患の小児 (1)気管支喘息	
7		8)感染を受けた小児 (1)ウイルス感染症 (2)細菌感染症	
8		9)脳・神経系に障害のある小児 (1)脳性麻痺 (2)てんかん	
10		10)その他 川崎病	
8	3. 小児期にみられる主な健康障害に対する看護	1)低出生体重児(未熟児)看護	
9		2)呼吸器に障害がある小児の看護 (1)肺炎 (2)かぜ症候群	
9		3)循環器・血液系に障害がある小児の看護 (1)先天性心疾患をもつ小児の看護	
10		4)消化器に障害のある小児の看護 (1)口内炎疾患をもつ小児の看護 (2)先天性消化器疾患をもつ小児の看護	
10		5)腎・泌尿器系に障害のある小児の看護 (1)腎炎をもつ小児の看護 (2)ネフローゼ症候群をもつ小児の看護	
11		6)悪性新生物をもつ小児の看護 (1)脳腫瘍になった小児の看護 (2)神経芽細胞腫になった小児の看護 (3)白血病になった小児の看護	
12		7)アレルギー疾患の小児の看護 (1)気管支喘息になった小児の看護	
13		8)感染を受けた小児の看護	
14		9)脳・神経系に障害のある小児の看護(脳性麻痺・てんかん)	
15		10)その他 川崎病	
テキスト、教材、参考書	「小児看護学」 著者:吉武香代子 医学書院 参考書:その都度紹介する		
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義 ビデオ OHP		
成績評価の方法	ペーパーテスト 他		
メッセージ			

授業科目名	小児看護学特講	担当教官	高田茂子
対象学生	2学年	学期及び曜日・時限	後期・月曜 IV限
単 位	1単位	選 択	教室名
学習のねらい	小児の発達段階の特徴を踏まえた看護過程の展開を理解し、展開を通して、小児・家族との関係を理解し援助の方法を学ぶ。小児看護について考える		
回	講義題目	内 容	
1	1. 小児の発達段階の特徴を踏まえた看護過程の展開を理解する	1)看護の対象である小児の特徴について 2)小児の特徴を踏まえた情報収集について 3)情報分析について 4)問題点の優先順位の決定について 5)看護目標・解決策について 6)実施・評価について	
2	2. 紙上事例をもとに、小児の特徴を踏まえて看護過程の展開をする	1)事例の情報収集の分類を行う	
3		2)事例の分類した情報の分析を行い問題点を抽出する	
4		3)事例の問題点の優先順位を決定し、看護目標を設定できる	
5		4)事例の解決策の立案ができる	
6		5)事例の解決策に沿って実施する	
		6)事例の実施後評価し、修正する	
7	3. 小児看護について再確認する	看護過程の展開を終えて、小児看護についてまとめる (事例については、開始時に提示する)	
テキスト、教材、参考書	「小児看護学」 著者:吉武香代子 医学書院 参考書:その都度紹介する		
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義 グループワーク 学内実習		
成績評価の方法	ペーパーテスト 他		
メッセージ			

授業科目名	母性看護学の基礎	担当教官	大嶋 秀子
対象学生	1学年	学期及び曜日・時限	後期・木曜 IV限
単 位	1単位	必 修	教室名
学習のねらい	健全な次代を生き育てる過程と母性機能の特性を学び、母性看護の意義、目的、役割について総合的に理解する		
回	講義題目	内 容	
1	母性看護の概念	母性とは 母性看護とは	
2	人間の性と生殖	性と生殖の概念 セクシュアリティ	
3		生殖器の解剖生理 性機能	
4		母性の心理 母性行動と母子関係	
5	母性看護の沿革と現況	母性看護の変遷と諸外国の現状	
6		母性看護の現況と動向 母性看護に関する組織と法律 母性看護の場と職種	
7		女性のライフステージにおける母性看護	思春期 思春期の特徴 初経準備教育 母性の発達を促す看護
8			
9	成熟期 結婚に関する指導 家族計画指導		
10			
11	向老期 更年期女性の特徴 老年期女性の看護		
12			
13	母性看護の技術	事例を通して看護過程を学ぶ 母性看護における看護過程 母性看護における保健指導	
14			
15	試験		
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座「母性看護学」1 医学書院		
授業の形式、視聴覚教材の活用			
成績評価の方法	ペーパーテスト 課題レポート 出席状況		
メッセージ	健全な次世代を生き育てる機能と過程を学び、母性看護の責務を学ぶ		

授 業 科 目 名	母性の健康障害と看護Ⅰ	担 当 教 官	大 嶋 秀 子
対 象 学 生	2 学年	学期及び曜日・時限	前期・火曜 I 限 後期・火曜 III・IV限
単 位	2 単位	必 修	教室名
学習のねらい	妊婦・産婦・褥婦・新生児の生理的変化とその特性を理解し、母子、夫、家族に対して適切な援助方法を学ぶ 事例を通して対象の理解や看護に関する知識を統合し、判断力や問題解決能力を習得する		
回	講 義 題 目	内 容	
1	正常妊娠 妊娠の生理	妊娠の定義 妊娠の成立 妊娠の持続期間	
2	胎児の発育と生理	胎児の発育 胎盤の構造と機能 羊水	
3	妊婦の看護アセスメント	母体の妊娠による生理的変化 胎児の健康と発育状態の診断	
4		心理・社会的特性	
5	妊婦の看護と保健指導	妊婦の健康診査・保健指導（グループワーク）	
6			
7	演習	骨盤外計測 妊娠計測 触診法 児心音聴取	
8		呼吸法 妊娠体操 (グループワーク発表)	
9	ハイリスク妊娠	ハイリスク妊婦の看護	
10	正常分娩	分娩の三要素 分娩の機序 分娩経過	
11	産婦の看護	産婦の理解と看護 心理・社会的特性	
12	産婦の看護アセスメント	分娩の経過と看護	
13	ハイリスクおよび異常分娩	ハイリスクおよび異常分娩の産婦の看護 産科手術を受ける産婦の看護 双胎分娩の産婦の看護 HIV 感染産婦の看護 産科合併症産婦の看護	
テキスト、教材、参考書		系統看護学講座「母性看護学」2 医学書院	
授業の形式、視聴覚教材の活用			
成績評価の方法		ペーパーテスト レポート提出 出席状況	
メッセージ		妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護について学び、対象の看護が展開できるようにする。命の誕生と母子を取り巻く環境を理解する	

回	講義題目	内 容
14		産科病棟管理
15	まとめ・中間試験	
16	正常褥婦	身体的特性
17		心理・社会的特性
		母子相互作用
18	褥婦の看護アセスメント	褥婦の看護
		産婦看護の原則
		乳房管理
19	リスクの高い褥婦の看護	産科手術後褥婦の看護
	異常褥婦の看護	分娩後合併症の褥婦の看護
20	褥婦の看護	授乳介助・母乳栄養確立・産褥体操
21	(演習を含む)	
22	新生児の看護	身体的特性
23		呼吸・循環・腎臓・消化器・肝臓
24	新生児の看護アセスメント	正常経過の新生児の看護
		ハイリスク状態の新生児の看護
25	演習	新生児の沐浴
26		新生児の身体計測
27		授乳指導
28	事例による看護過程の展	初妊婦の看護
29	開	順調な経過で正常分娩した経産婦の看護
		母乳栄養を達成した褥婦
		母性看護学における情報の分析、アセスメント、看護問題の抽出、計画立案、実施、評価について学ぶ
30	まとめ・試験	

授 業 科 目 名	母性の健康障害と看護Ⅱ	担 当 教 官	大 嶋 秀 子
対 象 学 生	2 学年	学 期 及 び 曜 日 ・ 時 限	前 期 ・ 水 曜 IV 限
単 位	1 単 位	必 修	教 室 名
学 習 の ね ら い	妊産褥婦及び新生児の異常状態に応じた看護問題の査定及び解決のために必要な知識と方法を学ぶ		
回	講 義 題 目	内 容	
1	ハイリスク妊娠*	ハイリスク妊娠の定義・意義、スクリーニングの必要性、ハイリスク因子について学び、異常の早期発見と予測について考える 異常妊娠の病態・症状・診断・治療・胎児への影響、保健指導等について学ぶ	
2	異常妊娠*	妊娠中の母体の全身疾患	
3		(妊娠中毒症 妊娠悪阻 妊娠中の偶発全身疾患 妊娠貧血等)	
4		妊娠中の偶発性器疾患	
4		(性器の奇形 子宮筋腫 卵巣腫瘍 子宮の位置異常等) 胎児および胎児付属物の異常 (胎児の異常 卵膜の異常 胎盤の異常 臍帯の異常等) 子宮外妊娠 妊娠持続期間の異常(流早産 過期妊娠) 妊娠中の感染症 妊娠と放射線 妊娠と公害 周産期の薬物使用 妊娠中の予防接種 胎児の発育異常 胎児の先天性異常(遺伝子病 染色体異常等)	
5	不妊症*	胎外受精 胚移植	
6	異常分娩*	異常分娩の原因を理解し、異常の早期に努め、産婦の苦痛を除去し、母体および胎児の安全をはかるための手だてを学ぶ 母体の異常(娩出力 産道の異常 裂傷 出血等) 胎児の異常(胎位 胎勢 回旋 発育 数等) 胎児付属物の異常(卵膜 胎盤 臍帯 羊水等) 分娩時の損傷 分娩時の異常出血 分娩ショック 産科手術	
7	異常産褥*	産褥期に多い疾患、特に感染症について理解する 産褥熱 性器の異常 泌尿器感染症 乳房の異常 産後に発症する精神障害等	
テキスト、教材、参考書		系統看護学講座「母性看護学」2 医学書院	
授業の形式、視聴覚教材の活用			
成績評価の方法		ペーパーテスト レポート提出 出席状況	
メッセージ		授業での学習が実習に活かせるよう、しっかり学習してほしい。 事例をたいせつに。患者さまから学ぶ	

回	講義題目	内 容
7	異常新生児	新生児仮死 蘇生法 分娩外傷
8	ハイリスク妊娠の看護	事例を通して学習する
9		看護過程を学ぶ
10	異常妊婦の看護	若年妊婦の保健指導
11		高齢妊婦の保健指導
		マイナートラブルと保健指導
		心身症とカウンセリング
		合併症妊婦と看護
		妊娠中毒症
		妊娠悪阻
		流産
12	ハイリスクおよび異常分娩 産婦の看護	骨盤位
		勤労妊婦への処置
		HIV 感染産婦の看護
		産科手術を受ける産婦の看護
		骨盤位分娩産婦の看護
13	異常褥婦の看護	産科合併症産婦の看護
		産科手術後の褥婦の看護
		分娩後合併症の褥婦の看護
14	ハイリスク状態の新生児の 看護	母親が死亡した場合の看護
		低出生体重児の看護
		新生児仮死の看護
		分娩外傷の看護
		新生児の黄疸と看護
		新生児の感染と看護
15	試験	
		* 印は医師に講義の一部を分担していただく予定

授業科目名	母性看護学特講	担当教官	大嶋 秀子
対象学生	2学年	学期及び曜日・時限	後期・火曜 II限
単 位	1単位	選 択	教室名
学習のねらい	対象に応じた看護過程の展開ができる		
回	講義題目	内 容	
1	看護過程の展開	母性看護における看護過程 情報収集 査定・看護診断 看護計画 看護実践 評価 母性看護における保健指導	
2		事例検討 正常妊婦	
3		事例検討 正常産婦	
		事例検討 正常褥婦	
4		GW 発表	
5		事例検討 異常妊婦・産婦・産褥の事例	
6		事例検討 母性衛生上問題をもつ事例	
7		GW 発表	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座「母性看護学」2 医学書院		
授業の形式、視聴覚教材の活用			
成績評価の方法	レポート提出 出席状況		
メッセージ	事例を通して看護過程を学び実習にいかす		

授業科目名	精神看護学の基礎	担当教官	田村文子
対象学生	1学年	学期及び曜日・時限	後期・金曜 II限
単 位	1単位	必 修	教室名
学習のねらい	<p>人間の心の健康を成長発達、社会的適応の側面からとらえ、心の健康と不健康について理解する。また、本講義と通じて、学生が自己のメンタルヘルスの保持増進について理解できるようになることを目標とする</p> <p>心(精神)の健康とは何か、その考え方ととらえ方、心の発達と健康、対人関係と精神保健、ストレスと適応、家族・職場・学校・地域における心の健康について教授する</p>		
回	講義題目	内 容	
1 2	精神保健看護の歴史的変遷	精神障害者の処遇と精神保健看護について欧米、我が国の歴史的変遷を概観する。また、精神保健福祉の動向についても学習する	
3 4	心の健康	心の健康とは何かについて考える。心の健康に影響する要因をあげ、精神保健の意義について理解できる。心の健康をとらえる概念として、(1)正常と異常、(2)精神と身体、(3)発達論の視点から考える	
5 6	心の発達と健康	人のライフサイクル(乳児期・幼児期・児童期・青年期・成人期・老年期)における発達課題について概観する。家庭・学校・職場・地域などの環境と人間関係が心の健康・不健康(虐待、家庭内暴力、不登校、校内暴力等)に及ぼす影響について学習する	
7 8	ストレスと適応	ストレスは環境(外界)からの刺激により引き起こされる。セリエによるストレス、ストレスラー、適応について学習する。ストレスが高いといわれる現代社会のさまざまな心の健康問題とストレスに適応していくためのウェルビーイング well Being(心身のよりよい状態)について考える	
9	ストレスコーピング	ストレスに対するさまざまなコーピング法(ストレス対処法)について概説する。また、学生自身が体験しているストレスと対処法について発表し合う	
10	セルフケア理論	オレム、アンダーウッドによるセルフケア理論を用いて精神障害者のセルフケア活動について考える	
11 12	精神保健看護の位置づけ、機能	カリキュラム改正と精神保健看護学の位置づけについて概説する。また、精神の健康問題をもつ人々の不安や苦痛の軽減、その成長や自立をたかめるための精神保健看護の機能と役割、チーム医療について学習する	
13 14	精神障害者福祉の動向	これまでの精神障害者は多くのハンディキャップ(社会的不利益)を受けてきた。1995年の「精神保健および精神障害者福祉に関する法律」(精神保健福祉法)で精神障害者の真のノーマライゼーションの実現がめざされるようになった。精神障害者と社会参加について概説する	
15	まとめ	まとめ	
テキスト、教材、参考書		新版看護学全書 35 精神看護学[1] メヂカルフレンド社, 1997. 随時、関連資料を配布	
授業の形式、視聴覚教材の活用		講義 グループワーク	
成績評価の方法		テストと授業中の発表を考慮する	
メッセージ		学生自身のメンタルヘルスの保持増進について考える機会にしてほしい	

授 業 科 目 名	精神の健康障害と看護Ⅰ	担 当 教 官	田 村 文 子
対 象 学 生	2 学年	学期及び曜日・時限	前期・火曜 Ⅲ限 後期・木曜 Ⅱ限
単 位	2 単位	必 修	教室名
学習のねらい	精神分裂病、躁うつ病、神経症などの精神の健康問題をもつ人に、看護婦(士)と患者の対人関係を基礎にして精神保健看護活動が展開できる。さらに、レクリエーション療法、作業療法、SST、生活指導などによる精神障害者の社会復帰活動および障害者の権利擁護のための看護者の役割について理解できる		
回	講 義 題 目	内 容	
1～ 3	精神保健の看護の基本	精神障害者が理解されてきた歴史と精神科看護の変遷について説明する。精神保健法の要旨、看護者に求められる資質、精神障害者とのコミュニケーションの特徴、患者－看護者関係、観察のポイント等について説明する	
4 ～ 7	精神分裂病患者の看護	精神分裂病のさまざまな状態(幻覚・妄想、無為自閉、拒絶、昏迷、自傷行為、攻撃、離院)にある患者に対する援助の方法について説明する VTR: 精神分裂病の急性期、慢性期にある患者に対する援助の方法について説明する	
8 9	うつ病患者の看護	軽度、重度うつ状態および躁状態にある患者にみられる身体症状(不眠、食欲不振等)及び精神症状(抑うつ、不安などの感情障害、昏迷、抑制などの意欲・行動障害等)について事例を通して説明する	
10 11	てんかん患者の看護	てんかんのさまざまな発作(大発作、重積発作、小発作など)に対する看護援助および日常生活指導について説明する	
12 ～ 14	神経症患者の看護	神経症(ヒステリー、摂食障害、登校拒否等)の看護援助について事例を通して概説する	
15 ～ 17	ICU 症候群、リエゾン精神科看護	ICU・CCU等における術後管理の過程でみられる特異な神経障害であるICU症候群について概説する。精神的危機が生じる医療、看護の中で、精神看護的な知識や技術を基盤とした助言を行い、患者－看護者関係を築くためのコンサルタントをするリエゾン精神科看護を概説する	
テキスト、教材、参考書	新版看護学全書 36 精神看護学[2] メヂカルフレンド社 1997 (参)川野雅資:精神障害者の臨床ケア メヂカルフレンド社 1998 Gail Wiscarz Stuart et al:神郡 博、田村文子他訳:精神看護学の新しい展開 医学書院 MYW 1997 M.Townsend: 神郡 博、田村文子他訳:精神科領域の看護診断 日総研出版 1990 新井治子編:看護データブック 医学書院 1998		
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義 VTR グループワーク		
成績評価の方法	ペーパーテスト(100%)と授業への出席状況 グループワークの発表を考慮する		
メッセージ	授業中の私語厳禁。出席は毎時間とる。黒板に書かれた事項は必ずノートにとること 難解な用語が多いので、質問は随時可能である		

回	講義題目	内 容
18 19	社会復帰活動と看護	社会復帰活動(作業療法・レクリエーション療法・生活指導・SST)の歴史の変遷および看護活動について説明する。また、精神科デイ・ケアの目的と活動の実際について説明する
20 ～ 28	事例展開 まとめ	事例(精神分裂病、うつ病事例)を用いた看護過程の展開 グループワークにより看護診断について学習する グループワーク発表後のまとめ

授 業 科 目 名	精神の健康障害と看護Ⅱ	担 当 教 官	田 村 文 子
対 象 学 生	2 学年	学 期 及 び 曜 日 ・ 時 限	前 期 ・ 金 曜 Ⅲ 限
単 位	1 単 位	必 修	教 室 名
学習のねらい	精神科の医療・看護は障害者を隔離・収容するものから、治療共同体を前提とする方向へ転換している。精神医学の概念、精神障害の病因(内因、外因、心因)、疾病の分類(ICD-10、DSM-IV)、精神障害の諸症状(感覚、知覚、意志、欲動、思考、感情等)および治療法について学習する		
回	講 義 題 目	内 容	
1 2	精神分裂病	精神医学の変遷および、現在の精神科治療の場は、病院から地域へとその中心を移そうとしている。入院患者の 60%を占める精神分裂病の概念、症状、診断、病型、治療(薬物療法、精神療法、社会復帰療法)について概説する	
3 4	躁うつ病	分裂病と並ぶ内因性精神病の躁うつ病の概念、症状、診断(単極型感情障害、双極型感情障害)、病因(性格要因、生物学的要因、環境要因等)、治療(薬物療法、電撃療法)について概説する	
5 6	神経症	精神的要因(心因)により生じる心身の機能障害である神経症の概念、神経症発症のメカニズム、性格と防衛機制、状態像・発症状況による分類、治療(精神療法(支持療法、表現療法、洞察療法、訓練療法、行動療法)および薬物療法)について概説する	
7 8	児童精神医学	心身の成長発達段階にある小児の精神医学が精神医療の独自の分野として発展していくことが社会的関心を集めている。児童・思春期の精神障害について子ども、家族、社会的環境要因の視点から考える。発達障害(発達遅滞・自閉症等)、神経症的障害(不登校、摂食障害等)、精神病的障害(精神分裂病、躁うつ病)について概説する	
9	てんかん	意識障害とけいれん発作を主徴とする慢性脳疾患であるてんかんの原因による分類(真性、症候性てんかん)、発作型による分類(部分発作、全般発作等)、検査、治療および精神症状について概説する	
10 11	老年期精神障害	初老期・老年期の精神障害の痴呆性疾患(アルツハイマー型痴呆、脳血管性痴呆等)について、痴呆の概念、症状、検査等について概説する	
12 13	脳器質・症状精神病	脳器質性精神病(脳腫瘍、脳炎、進行麻痺)および症状精神病(アルコール依存、薬物乱用の身体症状、治療)について概説する	
14	物質関連障害	物質乱用による依存、嗜癖について概説する(アルコール、薬物など)	
15	薬物療法	精神科領域で用いられる薬物療法について概説する	
テキスト、教材、参考書	新版看護学全書 36 精神看護学[2] メヂカルフレンド社 1997 G.W.Stuart st al.神郡 博、田村文子訳:精神看護学の新しい展開 医学書院 MYW 1997 Mary C. Townsend、神郡 博、田村文子訳:精神科領域の看護診断、日総研出版 1990		
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義、VTR:NCME 精神神経科学ビデオプログラム 第4巻:精神分裂病の初期診断(21分)		
成績評価の方法	ペーパーテスト		
メッセージ	難解な専門用語が多いので、質問は随時可能である		

授業科目名	精神看護学特講	担当教官	田村文子
対象学生	2学年	学期及び曜日・時限	後期・火曜 II限
単 位	1単位	選 択	教室名
学習のねらい	関係法規からみた精神障害者観の変遷(アドヴォカシー(権利擁護))および最近の精神看護をとりまくトピックス(リエゾン精神看護、PTSD等)をとりあげて学習すを深める。		
回	講義題目	内 容	
1	精神保健福祉活動	精神障害者観の変遷を法的側面(精神衛生法や精神保健福祉法など)からとりあげる	
2	リエゾン精神看護	精神科リエゾン看護の概略とその実践について文献抄読を中心に学習する	
3			
4	看護とストレス	看護の場のストレスについて考える	
5	PTSD	PTSD(Post Traumatic Stress Disorder : 心的外傷後ストレス障害)に関する文献を抄読し、こころのケアについて学習する	
6	まとめ		
テキスト、教材、参考書	関連文献は事前に配布します		
授業の形式、視聴覚教材の活用			
成績評価の方法	授業中の発表、レポートで評価する		
メッセージ			

授業科目名	看護研究Ⅰ	担当教官	内藤和美
対象学生	2学年	学期及び曜日・時限	後期・火曜Ⅰ限
単位	1単位	選択必修	教室名
学習のねらい	どのような専門職も、職業を遂行していく過程で、その専門性に関わる研究が欠かせない。看護研究Ⅰでは、研究とは何か、研究の種類、プロセス、論文のまとめ方など、まずは3年次の看護研究Ⅱに取り組むために必要な知識を身につけ、ひいては看護師として研究をしていく基礎的な姿勢を培う		
回	講義題目	内 容	
1	研究ということ	研究とはどういうことか、研究の目的のいろいろ、研究の種類、文献(種類、検索、入手、整理)	
2	研究論文の構成と書き方	標題、はじめに、対象と方法、結果、考察、おわりに、付記・謝辞等、文献、図表	
3	事例報告	事例報告書の特徴、事例報告の進め方	
4	看護の事例報告を読む	ワークシートに記入しながら、事例報告の実例を読む	
5	事例研究	事例研究の特徴、事例研究のいろいろ(目的による、記述のしかたによる、資料の収集方法による)、事例研究の進め方	
6	看護の事例研究を読む1	ワークシートに記入しながら、事例報告の実例を読む	
7	看護の事例研究を読む2	ワークシートに記入しながら、事例報告の実例を読む(続)	
8	看護の事例研究を読む3	ワークシートに記入しながら、事例報告の実例を読む(続)	
9	実態調査研究	実態調査研究の特徴、実態調査研究のいろいろ(目的による、記述のしかたによる、資料の収集方法による)、実態調査研究の進め方	
10	実態調査研究を読む1	実態調査研究の実例を読む	
11	実態調査研究を読む2	実態調査研究の実例を読む(続)	
12	実態調査研究を読む3	実態調査研究の実例を読む(続)	
13	演習	各自の「基礎看護学実習Ⅱ」時の記録を資料に、そこから「研究課題」「用いる情報」「補充する必要がある情報」を整理し、研究計画を立ててみる	
14	演習	各自の「基礎看護学実習Ⅱ」時の記録を資料に、そこから「研究課題」「用いる情報」「補充する必要がある情報」を整理し、研究計画を立ててみる(続)	
テキスト、教材、参考書	プリントと資料による		
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義、グループワーク、各人の作業 プリント・資料を綴るファイルを用意してください		
成績評価の方法	演習課題の提出、平常点		
メッセージ	看護研究Ⅱに不可欠の基礎として、履修が望ましい		

授業科目名	生命倫理	担当教官	村上隆夫
対象学生	3学年	学期及び曜日・時限	前期・集中講義
単位	1単位	必修	教室名
学習のねらい	現代医療における哲学的な諸問題に関する基礎的な知識と基本的概念を学習し、具体的な状況における判断力・思考力を養う。		
回	講義題目	内 容	
1	伝統的宗教における生命と身体	ヨーロッパの哲学と思想の発展を概括しながら、身体と理性との関係及び他者の身体へのケアと他者の理性・人格への尊敬との関連について理解してゆく フレイザー、バハオーフェン、フロイト等を参考にしながら原始社会における生命身体観を論ずる。	
2	古代哲学における生命と身体	プラトン、アリストテレスを参考にしながら古代哲学における生命・身体観を論ずる	
3	近代哲学における生命と身体	デカルト、カントを参考にしながら近代哲学における生命・身体観を論ずる	
4	伝統的社会における死	フョイエルバッハ、アリエスなどを参考にしながら前近代社会における死の在り方を論ずる	
5	近代社会における死	フョイエルバッハ、アリエスなどを参考にしながら近代的・キリスト教的社会における死の在り方を論ずる	
6	疎外される身体と加工される身体	デカルト、マンフォードなどを参考にしながら、身体の客体化・対象化の過程を論ずる	
7	近代的所有権と身体	ロック等を参考にしながら、近代的人格概念の形成と身体の問題を論ずる	
8	身体は誰のものか(臓器移植)	身体的所有権と臓器移植に関する諸問題を論ずる	
9	近代的人権と医療	キリガン等を参考にしながら、ケアと人格的關係との関連を論ずる	
10	人間が人間になるのはいつからか	妊娠中絶と嬰兒殺しに関する哲学的問題を論ずる	
11	人間が人間でなくなるのはいつからか	末期医療と安楽死・尊厳死に関する哲学的問題を論ずる	
12	こどもは誰のものか	人口授精など生殖技術に関する倫理学的問題を論ずる	
13	医療関係者と患者の関係	医療関係者と患者との関係についての倫理学的問題を論ずる	
14	医療行為と正義	医療資源の分配原理に関する倫理学的考察を行う	
15	総括と討論		
テキスト、教材、参考書	適宜プリントを配布し、その中で参考書を紹介する		
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義を中心に、適宜討論を行う		
成績評価の方法	筆記試験による		
メッセージ			

授 業 科 目 名	国際保健医療協力論	担 当 教 官	矢 嶋 和 江
対 象 学 生	3 学年	学期及び曜日・時限	前期・月・金曜 I・II 限 (集中講義)
単 位	1 単位	選 択	教室名
学習のねらい	海外及び日本における国際的看護活動の実情を具体的に学習する中から文化の差異に応じた看護と人間の価値観へのより深い理解と看護に対する視野を広げる事を意図している。また、開発の視点からみた日本の国際保健医療協力の在り方やその意義・課題について理解する。		
回	講 義 題 目	内 容	
1	世界の看護について	<講義概要> 看護の対象は『人』であり、その人々の看護にあたっては、文化や宗教、生活習慣、社会経済、政治教育などあらゆる状況を視野にいたした看護のアプローチが求められている。異文化看護に関する理解を深めると共に、各国の保健医療の状況、保健医療分野に於ける国際協力とプライマリヘルスの理念等について概観する。	
2	国際協力とは	各国の保健医療と看護の現状について紹介し、先進国と途上国の格差について概観する	
3		国際協力の分野について概説し、日本の果たしてきた国際協力の経過を理解する ①WHO の機構とその役割…WHO の機構について紹介し、健康政策における世界戦略の歴史的経過を理解する ②WHO とプライマリヘルスケアの理念 ③保健医療分野における国際協力 医療協力の歴史的経過を概観し、医療協力の現状と今後の課題について考える	
4	国際協力に求められる能力	国際協力のイメージと実際 ①看護職の業務と実際 ②開発途上国で求められる看護婦(士)の資質	
5	開発途上国における協力	1. 青年海外協力隊の活動事例	
6	活動の実践例	2. 民間の医療協力の活動事例	
		3. 戦争と医療協力: 難民キャンプにおける活動	
		4. 国際緊急援助隊の活動事例	
7	母子保健とジェンダー	1. 途上国と先進国に於ける母子保健の現状と今後の課題	
		2. 伝統的医療と民族としての慣習的医療 女性と子供の健康に関する人権問題	
	看護の国際協力の課題	1. 開発と豊さからみえるもの	
		2. 国際協力の意義について	
テキスト、教材、参考書	医学書院 「国際看護学入門」		
授業の形式、視聴覚教材の活用	講義、スライド、VTR		
成績評価の方法	課題発表及び終了時のレポート提出により総合的に判断し評価する		
メッセージ	国際保健に関心のある学生、また将来、国際協力分野での活動を希望している学生は、ぜひ受講してほしい		

授業科目名	歯と健康	担当教官	浅見知市郎
対象学生	2学年	学期及び曜日・時限	後期・木曜 III限
単 位	1単位	選 択	教室名
学習のねらい	看護学生に口の中を見る目を養わせ、高齢化社会に向けて口腔ケアの重要性を認識させる		
回	講義題目	内 容	
1	歯とはどういうものか	1) 歯の構造と機能 2) 歯周組織の構造と機能 3) 口腔内諸組織の構造と機能 4) 加齢変化	
2	う蝕(虫歯)とはどういう疾患か	1) う蝕の原因 2) う蝕の診査法 3) う蝕の治療法と予防法	
3	歯周病とはどういう疾患か	1) 歯周病の原因 2) 歯周病の診査法 3) 歯周病の治療法と予防法	
4	義歯について	1) 義歯の種類 2) 義歯の取り扱いについて	
5	不正咬合とはなにか	1) 不正咬合の原因と種類 2) 矯正治療	
6	顎関節症とはなにか	1) 顎関節症の原因 2) 顎関節症の診査、診断 3) 顎関節症の治療法	
7 ～ 15	その他の歯科疾患について	1) 先天性異常 2) 外傷 3) 嚢胞性疾患 4) 腫瘍 5) その他	
テキスト、教材、参考書	系統看護学講座「歯・口腔疾患」医学書院		
授業の形式、視聴覚教材の活用			
成績評価の方法	筆記試験で判断する		
メッセージ	是非、受講し歯科に詳しい看護婦(士)を目指してください		

授業科目名	看護研究Ⅱ	単位認定者 担当教官	大嶋秀子 全教員
対象学生	3学年	学期及び曜日・時限	前後期
単 位	1単位	必 修	教室名
学習のねらい	看護研究Ⅰの学習を踏まえて、看護における研究の意義と必要性を具体的に理解し、学生自身が研究を行うなかで研究姿勢を養い、研究をしながら看護を実践していけるようになるための基礎をつくる		
回	講義題目	内 容	
	研究テーマの確定 目的の明確化 方法の決定 データの収集 データの集約・分析・考察 中間発表会 論文作成 研究成果発表会 論文提出	各担当教員の指導のもと、グループ単位の共同作業により以下のことに取り組む 看護研究Ⅰで大筋を見定めた研究テーマの具体化 何を明かにしたいのかを明確にする その目的を達成するために、どのような方法でどのようなデータを収集し、収集したデータをどのように集約・分析するのかを決める データの収集 データを集約し、それについて分析・考察を行う 得られた成果について中間的な口頭発表を行う(9月) 論文を作成する 12月 冬季休業明け締切	
テキスト、教材、参考書	担当教員の指導による		
授業の形式、視聴覚教材の活用	担当教員の指導による		
成績評価の方法	作成された論文、1年間の取り組み姿勢		
メッセージ	専門職に研究は不可欠です。3年間の学習の集大成として精一杯の取り組みを期待します		